

放送人の会

No.87

2020.2.21

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階 Tel & fax 03-3221-0019 Mail info@hoso.jin.jp
 発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野 勉 編集担当 伊藤雅浩 (広報委員長・編集長)、菅野高至 (HP担当)、鈴木典之、逸見京子、藤田知久 (カメラ担当) 松尾羊一 事務局 千葉邦彦 須齋恵美子

新聞とテレビとSNS

放送人の会会長 今野 勉

NHK放送文化研究所は、1960年から5年ごとに、「国民生活時間調査」を行っている。

とうぜん、一日のうち、どのメディアにどれだけの時間を費やしているか、について調べている。私たちの関心事だ。

ことし(2020)は、その調査の年にあたるが、発表は遅延だから、調査結果を知るのはまだ先だ。

前回の調査は2015年に行われ、翌16年に調査結果を見た時、とても驚いたことがあったなア、と思い返し、資料をあたって見た。若者のテレビ離れが進んで、インターネットに費やす時間が前回(2010年)より増えた、などという数字に驚いたわけではなかった。

資料を探して読み直して、思い出した。新聞にまつわる数字に、驚いたのだ。

1、テレビは時間半、新聞は1分

1日の中で70代以上の男女が新聞に費やす時間は、10年前の2005年で男は小1時間、女は30分超。それが15年になると、男は50分ほどに、女は30分ほどに減っているが、驚くような数字ではない。

それが、10代になると、男女とも、10年前(05)には、1日2分(!!)だったのが、10年後の15年には、1分(!!)になっていたのだ。これは平均だから、まったく新聞を読まない若者がかなりいるということなのだろう。「1分」に驚いたのだ。

テレビはどうだったか、と見てみる。70代以上の男女は、05年も15年も、1日5時間以上テレビを見ている。15年になると多少減っているが、テレビ離れというほどのことではない。

10代はどうか。05年に2時間ほど見られていたテレビは、15年には1時間半ほどに減ってはいる。でも、けっこう見ているではないか、というのが私の印象だった。というのは、10代でインターネットに費やしている時間を見ると、男が1日に51分、女は36分だったからだ。テレビより少ないのだ。(以上、毎日新聞より)

2、新聞とテレビ、信頼度は

放文研の資料をあたって見ると、新聞とテレビを比較する別の資料が見つかった。

若者は、どのメディアの情報に最も信頼を置いているか、という調査を、朝日新聞が16年に発表している。メディアの信頼度調査だ。

18、19歳の若者たちの答えは次の通りだった。

- 1位 テレビ 52%
- 2位 特になし 15%
- 3位 新聞 9%
- 4位 ネットのサイト・SNS 8%
- 5位 学校の授業や先生 7%
- 6位 本や雑誌・友人 各1%

テレビが断トツに信頼されているのに驚く。新聞が9%、ネットのサイトやSNSなみの

信頼度しかないのに驚く。学校の授業や先生がSNS並みの7%なのに驚く。本が1% (!!)、友人が1% (!!)

3、私たちの生きている時代

私がかも一つ驚いたことがある。1日の中で新聞に費やされる時間が「1分」という事実について、また、新聞の信頼度が「9%」という事実について、当の新聞に、一言の論評もなかったこと、である。

私自身の1日の中でメディアに費やす時間は、新聞が2時間前後、テレビは曜日でバラバラ、本は集中して読むから解らない。

世の中にこんなことが起きている、世の中にはこんなふうに住んでいる人がいる、世の中にはこんなふうを考えている人がいる、世の中には知らない世界を知らせてくれるのは、新聞とテレビである。未知の世界と出会うには、ただただ、毎日、新聞を読むかテレビを見るかだ。そこで知った人間や世界をもっと知りたい時は本を買う。もっと知りたい時は現地に行く。

二つの調査結果を前に、あらためて私はいま、自らに問うている。私たちはどいう時代に生きているのだろうか。ことしの調査の結果を早く知りたい。

付

この欄で、4Kのテレビ番組の制作現場を報告したことがありますが、本年、そのテレビ番組「宮沢賢治 銀河への旅」の演出に対して、毎日芸術賞特別賞が授与されました。会員や理事の方々からメールや書簡でいろいろお言葉をいただきました。私事ながら、この場を借りて、お礼を申し上げます。有難うございました。

年頭所感 2020

箱根路のランナー眩しき隠居かな

荻野慶人

四年前、私は次のように失礼を詫言した。

「太平洋戦争の敗戦より70年を重ねた喜怒哀楽に感慨無量です。中学一年の12歳より、野球とジャズと欧米映画で民主主義に馴染み、高校二年の16歳より、お年玉クジ付年賀ハガキで交友録を分厚くしてきました。

後期高齢の近年、喪中の挨拶を頂く度に御遺族の苦勞と朋友の困惑を想います。やがて来る日のために、私も御厚誼に背き今季で年賀状を卒業させて頂きます。

『楢山節考』に共感したわけでもなく、人生の合理化・軽装化に過ぎません」

ところが今年も「返事は要りません」とか「私は続けますよ」と迎春の便りが百通近く届いて狼狽する。売切れなくなったせいか、その殆どがお年玉クジ付ハガキだ。だから三が日も営業している渋谷の大きな郵便局で私もクジ付を手に入れ、冒頭のような返信を松の内に投函した。出来るだけ多数に、より素敵なお年玉が届くように願っている。

◇

お年玉付き年賀ハガキの誕生は一九四九年で、景品は特等Ⅱミシン、一等Ⅱ純毛洋服地、二等Ⅱ学童用グローブ、三等Ⅱ学童用こうもり傘だったから敗戦直後の日本人の生活が偲ばれるが、私には腕組んで苦難を潜り抜けた親友のようで四年前の別れは辛かった。箱根駅伝は一九二〇年に始まり、第二次世

界大戦の激化で中止された時期はあるが、今年で96回を数える。

二〇二〇年早々世界に激震が走った。イン危機で『第三次世界大戦』という怖ろしい字句がちらついていた。箱根路に力強い足跡を記録する若いランナーたちが万が一にも兵器を手にするような暴挙を、想像したくもない。

謹賀新年

佐々木 光政

カルロス・ゴーンの逃亡、米とイランの対立・航空機誤射、豪州の山火事、新型肺炎：と度肝を抜かれた正月。前途多難を窺わせる今年はTOOKYO 2020。そして二次大戦終結四分の三世紀の年である。五輪の前には都知事選やレジ袋全面有料化といった身近な予定もある。

NHKは昨年の相次ぐ俳優の不幸事の末、大河ドラマ『麒麟がくる』が予定の2週遅れで始まった。それを見届けるかのように上田良一会長が24日退任、この日夕刻の本館4階正面玄関ロビーは見送りの大勢の人垣で埋まった。2013年から経営委員を務め、この3年は会長職、バランス感覚に優れ、その人柄が多くの役員から惜しまれての離任となった。ネット同時配信と見逃し番組配信サービスについての総務相からの見直し指示にも現実的な落としどころ探り、新しい時代にふさわしい公共メディアの姿を示しての卒業は、ここ数年の会長には見られなかった業績である。

新しい前田昇伸会長はみずほ出身、5代続いで済済界からの会長となった。公共放送における手腕は未知数だが、放送界全体が輝くような活躍を期待し、その言動に注視していきたい。

(株)NHKグローバルメディアサービス勤務

新春の抱負

新山賢治

「事実をもって語らしむ」地道に現場で取材や制作を重ねる若い放送人がまだまだ大勢いることを実感しています。

彼らを支援しながら、今年も提案文を持って現場をウロウロする日々を重ねたいと思います。「二歩間違えば“老害”になるぞ」と自戒しながら。

チエジユドとメダイ

菅野高至

年末年始に読んだ2冊の本の話をする。昨年の11月、新幹社と言う小さな出版社から地味なタイトルの本が一冊届いた。「在日朝鮮人文学 反定立の文学を超えて」、著者は林浩治、日本人である。内容は、金蓮寿、金石範、金泰生、李恢成、李良枝、柳美里、玄月、金城一紀などの作品論や作家論を通して、日本文学における在日朝鮮人文学の立ち位置を探ろうとする評論集であった。読めば「なるほど……」と思うが、またまた「売れない本」を出したのだと思う。

新幹社との出会いは一九九〇年の春、単発ドラマ「李君の明日」をNHK大阪で作った時の原作を出した出版社だった。舞台は大阪市生野区のコリアンタウン猪飼野(いかいの)。戦前から、済州島(チエジユド)の出身者が多い街である。90年代の住民の多くは、戦後48年〜53年に起きた一連の『島民虐殺事件(済州4・3事件、死者3万人)』の後に、難民として逃れて来た1世とその子孫たちだった。

物語の主人公は在日2世の李唐治(イ・カホンホ)、進学塾の英語教師で教えるには差別や苛めにあい、進路に悩む在日3世の少年や海外帰国子女がいる。李君自身も職場で本名を名乗るか否か、悩んでいる。そこへ、東京で別れたはずの日本人の恋人が追っかけて来て、さらなる李君の葛藤が始まる……。

『指紋捺捺制度』が、まだ生きていた時代のお話で、元秀一(ウオン・スイル)原作、田中卓子脚本、小林武演出。放送は5月3日の夜7時20分、90分ドラマであった。

5月3日、まごころごとく無く、憲法記念日の夜の放送である。

ちなみに、昨年の憲法記念日の夜、NHKは「ニコちゃんに叱られる! スペシャル」で『なつぞら』の番宣をかねていた。

29年の時を経て、かくもNHKは劣化するとは!……言葉も無い。

新幹社の社長で編集者の高三(コ・イサム)さんとは、その後、長い付き合いとなつて新しい本が出る度に、在日やチエジユドの歴史と文化を知って欲しいと、チラシと振込用紙を送ってくるようになる。

朝鮮半島を植民地化したニッポン人には、是非、読んで欲しい、と。

実は、新幹社は恒常的に経営が苦しい。売れなくても出版することに意義がある、と無理をしている。連れ合いが韓国の家庭料理の店を営んで、高家の家計を支えていた。

昨年の初秋、高さんから何度目かのカンパを募る手紙が舞い込んだ。大病を患ったが元氣になった、ついでに恒例のカンパをお願い

したい、と。彼は67歳、老婆心だが心身財力ともに無理をせぬように、と書き添えて、ささやかなカンパを振り込んだ。そのお札にと送ってきたのが冒頭に記した、またまた「売れない」が「意義のある」本だった。

もう一冊は、「メディア表現とダイバーシティを抜本的に検討する会、略称「MeDi（メダイ）」の会」の会員が執筆して、男性中心に作られるジャーナリズムとメディアに異議申し立てをする本だった。

「足をどかしてくれませんか。―メディアは私たちの声を届けているか」（垂紀書房、奥付の発行日が大晦日の12月31日である。年賀状の添え書きに飽きた26日の昼、ウエブニュースを覗いていて、ふと目にとまり、早速アマゾンで検索すると『都内翌日配達』となっている。この年の瀬に24時間の本が届く！ またまた、本屋さんを潰して申し訳無いなと思いつつも、『今すぐ買う』をクリック。翌27日の昼過ぎに、本当に本が届いた。

本の帯には、『男性中心に作られるジャーナリズムの「ふつつ」』は、社会の実像とズレている。メディアが世界を映す鏡なら、女性の「ふつつ」も、マイノリティの「ふつつ」も映してほしい。女たちが考える、みんなのためのジャーナリズム。』とある。

編者、林香里（東大大学院情報学教授・元ライター通信社東京支局記者。著者、小島慶子（エッセイスト・元TBSアナ）、山本恵子（NHK名古屋報道部副部長、白河桃子（ジャーナリスト・作家、治部れんげ（ジャーナリスト）、浜田敏子（ビジネスインサイダージャパン編集長、竹下郁子（ビジネスインサイダージャパン記者）、李美淑（立教大学グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター・助教、田中東子

（大妻女子大学文学部教授。

ジャーナリスト、エッセイスト、研究者たちが、日本のメディアの現状と、どう変わるべきかを、自らのキャリアヒストリーを交えながら真摯に綴った本である。

いつまで、続くのだろうか…CMは「家事をするのはお母さんだけ」、メディアには「理想の女性」が闊歩し、「女子アナ」がキラーコンテンツになり、バラエティは「いじめを笑いの種」にする。

題名の「足をどかしてくれませんか。」は一昨年公開の映画「RBG最強の85才」の主人公ルース・ベイダー・ギンズバーグ（アメリカの連邦最高裁判所陪席判事のセリフ「男性の皆さん、私たちが踏み続けているその足をどけて」から発想したものだ。

新聞、テレビなどメディアは男性中心で、意思決定をする要職は、ほぼ男性。だから、メディアは変わらないのだ…！と言っ。

データを出してみる。NHKでは経営委員12人のうち女性は5人だが、執行部の理事は会長以下12人のうち、女性は1人。日本テレビは会長以下取締役10人で、女性はゼロ。TBS、フジテレビ、テレビ朝日も女性にはゼロ。テレビ東京は役員11人のうち女性が1人。朝日・読売・日経の新聞社、いずれもゼロ。電通は26人の内2人、講談社は11人のうち1人。女性誌を出す集英社でも、役員14人のうち女性は3人であった。

他企業で見てみると、TOYOTAは役員9人のうち1人。HONDAは13人のうち女性役員は2人、スズキはゼロ。書けば書くほど、無念になる。

変わりそうも無いニッポンが、続くことを心に留め置きたいと思う。チェジウドもメダイも。

明けましておめでとうございませす

杉田成道

【七十過ぎの子育て日記。その十七】
一道、18歳。有 16歳。寧子 12歳。実（みのり）3歳。

令和元年、×月×日。幼稚園お受験、親子面談にて。

実（みのり）飽きたか、いきなり立ち上がるや、床に大の字にひっくり返り、「あ、あー」と歌いだす。「アーン」と言いたいのはこのうちの方。絶望に打ちひしがれて、門を出る。所が、何故かお情けにて合格。これで4人、同じ幼稚園、我が仕事も終わりぬ。時代も変わったし、いつ死ぬもよしか、と安堵す。

×月×日、京都にて。

藤沢周平『帰郷』撮影中、三平規管がズレたように、地面が揺れる。「これって脳？」。即座にMRIを撮る。「この白い点ね、見えるよね。脳梗塞です。ついに来たか…。「直ちに入院！」

と言うのを、「そんなの無理」と僕。「広がれば、半身不随か言語障害だよ」「だって、無理、無理」と撮影を続ける。一週間後、再検査。これに不思議、なんと白い点が消えていた。病名は「過性脳虚血発作。」「命がけですなあ」と感嘆される。当たり前だ。仲代達矢86歳、毎朝笑顔にて「これが最後と思ってますから」、恐るべしその執念。こちとらの都合で、とつても止（や）められぬ。

×月×日。なんとか完成、まづまづと安堵。これから先は、毎回命がけか、それもまた良し、生きるに緊張感ありと独（ひと）り言（い）つ。

「あといくつ寝たらお正月」と、指折り数える頃合いになりますれば、お会いすることも有りや無しや、ではありませんが…。

本年もよろしく願いたします。

〈事務局より〉

千葉邦彦

皆様、それぞれのお仕事、大変お疲れさまです。この場をお借りしまして、私、千葉邦彦の近況を、報告申し上げます。

昨年1月、父（97歳）の四十九日法要を済ませて間もなく母（96歳）が倒れ、介護施設から病院に救急搬送されました。延命措置が施され、予断を許さない状況が続きました。私も家族も覚悟しました。しかし、母は医師の予測に反して徐々に回復を示し、驚くべきことに、夏の終わりに介護施設に戻ることができました。一方で、その間に母の妹（89歳）が外出先で連絡を絶ち、意識不明のところを警察官が発見されて救急搬送されるという事件がありました。さらに、遠方に離れて住む肉親がサポートを必要とする状況になり、家族が力を合わせてこれらの対応にあたっているところ です。

かかる事情ゆえ、会の活動の「現場」に身を置くことがままならず、サテライト方式（自宅等での作業）などを通じての限定的な参加をご容認いただいております。ご理解とご支援を賜りました会長、副会長、総務委員各位はじめ理事・会員の皆様、事務局を守ってくださっている須斎さんに深く感謝申し上げます。

現状ではまた何かと制約がございます。とは申せ、可能な限り「現場」にての皆様との情報交換を心がけ、サテライト方式など合理的な代替手段も併用しながら事務局長の職務を果たして参りたいと思っております。行き届かないところは多々あるかと思いますが、引き続き、ご理解とご支援のほど何卒よろしく願いたします。

迎春

鶴橋康夫

近づくな来るな帰ると四十雀 　　が庭に来ます。

シャボン玉登枝拒否の児と猫と 　　一陣の風、一瞬の花嵐のように。

近くに住む七歳の孫も「じじつ」と来ます。彼は、僕の「晩節の研究」に来ていたようです。

まず卓球です。国体（予選）に出たことのある僕は、彼に一点もやりません。泣きながらピンポン球をぶっつけてきます。

桃太郎サーフィンに乗り鬼退治 彼の俳句です。通販で買った毛布をかつき鬼との交渉に行く雄姿のようです。

隙間風丸い地球の四隅吹く レバノンにもトランプにも交渉に行けない僕は、孫に遊ばれながら家庭劇の準備中です。

今年もよろしくお願いします。

今年もよろしくお願いします。

今年もよろしくお願いします。

今年もよろしくお願いします。

今年もよろしくお願いします。

今年もよろしくお願いします。

今年もよろしくお願いします。

今年もよろしくお願いします。

今年もよろしくお願いします。

今年もよろしくお願いします。

今年もよろしくお願いします。

子。GHQの民間情報教育局CIEの指導によるNHK番組制作の激変。民間放送設立への熱い思い。ラジオからテレビに「左遷」された人たちの戸惑い。暗中模索の中からドラマが隆盛を極めるまでの面白可笑しくも懸命な努力。白黒からカラー、衛星放送、そしてハイビジョンという技術の進歩に心血を注いだ人達の心意気、激しく変わりゆく世界の動きを、新聞からの受け売りではなく自分達の言葉と映像で伝えるべく、そのスタイルに磨きをかけてきた放送記者魂。己に誠実に時代を切り取るうとするドキュメンタリストの志の高さ。

これら全てが、当事者の生の言葉で語られているのです。私が個人的に接した方々もいらつしやいます。その背景は私の「放送人」としてのキャリアに重なる部分も多々あります。それらが相まって更に理解が深まり、興味が増していきました。

「放送人の証言」は疑いなく日本の放送史の一次史料であり、放送文化研究の素材であり、今後放送を目指す後進のバイブルとなるべき類例のない価値を持っているのです。先人の建てた金字塔であることは勿論、これからも建設が続くガウディのサグラダファミリアのような存在です。

2025年はNHKが日本でラジオ放送を始めてから100年にあたるそうです。私たちはここで、放送の誕生・成長・成熟を辿り、今後のあり方を考える上で、この「証言」を世に問うべきです。そして未開の地平を切り開いた先人の若々しい活力をもう一度「放送」に吹き込みたいものです。その為

に、私はこの一年楽しく頑張ってみたいと思います。

勿論このプロジェクト実現には会員の皆さんの力が必要なことは言うまでもありません

一人でも多くの方が趣旨に賛同して、協力いただくよう、お願い致します。

2019/2020 メディア関連事象

前川英樹

去年、メディア関連で起きたことについてラ

ンダムにノートしてみよう。その延長上に今年がある。

1、あいちトリエンナーレ「表現の不自由展

その後

言うまでもなく、ここでの論点は「表現の自由とは何か」であるが、少しそこを踏み込めば

「歴史認識問題と表現の自由」あるいは「公権力と表現の自由」という関係について考えなければなるまい。ここで次の一節を思う。「詩を改竄するという醜い行為をやめさせるためには、単なる建て直し（ペレストロイカ）ではなく、ひとつの国家の崩壊が必要だった。」

（「マヤコフスキー事件」小笠原豊樹 河出書房新社）

2、放送法4条「政治的公平性」

放送法において「政治的公平」規定は何故必要かという議論があった。これについては、「会報」に少し書いた（No.81）。その論点は「免許制の下で表現の自由はいかにして成立するか」ということと深く関わる。そしてそれは、制度論とメディア論の両面から深められなければならない。昨年のメディア事象でいえば、例えば「かんぽ報道とNHK」はそこに関わる問題であろう。

3、NHKのネット常時配信と放送局の存在理由

今時放送局のネット配信を制約する理由などあり得ない。政府はネット配信問題を梃にしてNHKコントロールを意図している（としか思えない）。深められなければならないのは「NHKとは何か、その存在理由と権力との関係」が論じられるべきであり、ということには

民放の存在理由もまた問われるということになる。メディア論的に言えば、ネット社会における情報編集責任の在り方の問題であろう。

3、天皇即位関連報道

新天皇即位の一連の儀式中継など皇室報道が盛んな年であった。「天皇制をどう報道するか」は相当にデリケートな問題であろう。日本国憲法第一章は何故「天皇」なのか、あるいは戦後民主主義と象徴天皇制における天皇の発言（アクト）としての「おことば」、など戦後この国の政治的社会的構造と国民の心的構造（内なる天皇制）について、おそらくどこかでメディアとしてのスタンスが問われることが避けられない状況が来るであろう。

4、ラグビーワールドカップ

ワールドカップを楽しんで観た一人であるが、スポーツナショナリズムをどう考えるかは悩ましい。戦後、オリンピックとノーベル賞にナショナリズムを閉じ込めてきた日本人が、いつまでそうしていられるだろうか。

その他、環境問題、香港・台湾・中国情勢、中東情勢、四問題、米大統領選、日韓・日朝関係、原発廃炉と再稼働、絶望的気分になりそうな国内の諸問題、などなど

「元氣です」

新年に当たったの抱負、もろもろの意見：「元氣です」の一言でも結構ですと原稿依頼文にあるから、とりあえず「元氣です」と記して、ふと疑問がよぎった。

「さてよ、オレは元氣なのか。青年のように元氣で明るく過ごしていると書けばウソになる。老人特有の意地つばりのカラ元氣は逃げの姿勢じゃないか。晩年の元氣とは元氣の

「元氣です」

「元氣です」

「元氣です」

「元氣です」

「元氣です」

「元氣です」

「元氣です」

無い元気を言う。言い換えれば、超高齢の限界領域に踏み込んだものに辛うじて許される生き方、それは諦念の生き方だと言っている。

さて、令和も二年。どこか無重力で顔の無い世相に戸惑うこの頃、思えば我ら前期「昭和っ子」はことさらに肩を怒らせた、いわば思想の時代に振り回されてきた。維新の革命がじつは非生産的で、欧米のように敗者の知恵を「近代」として復元するしたたかさをもたない。江戸期の矛盾と対峙して「大正」という疑近代から鬼子を生み右顧左眄、長い戦後幻想を未だにかかえて氾濫する情報のゴミ処理に喘いでいる始末だ。

令和二年、そろそろ時代の本音の端切れでもいい、見せて欲しい。思想の無いライブ感覚で切り売りされる夥しい言論の消費時代に浮遊している現代……つまり令和二年を九十歳の大台、それぞれの個性でお互いに長生きするしかありません。

***** 黄金色のお年玉 ***** 吉田寛策

令和元年最初の年末年始はテレビに親しみ、「時の魔法」を使い楽しく過ごした。大晦日はわが故郷の局KHBがBSの電波による全国発信「東北の黄金郷」を題材にしたもの、「黄金の国ジャパン」の原点を探っていた。金は世界的にも通貨の基本になっていたのだから、「仮想通貨の時代」にも考えさせられるテーマである。裏表となったNHK紅白は黄金の龍に乗り今話題の歌手が熱唱する。デビュー時から今、まさに時代は変わる。

明けて令和最初の正月は恒例のニューイヤークンサート。現地昼の様子はいつものように日本の夕食時に生で楽しめ、楽友協会の金の装飾が元旦の食卓に華やかさを足してくれる。指揮はラトビア出身の若き巨匠アドリス・ネルソンス。従来のウィーン風のタッチとは

少し違う瑞々しさをもたらす。

そして二日、既に大晦日に放送されたペーローヴェンの第九を録音で楽しむ。指揮はシモーネ・ヤングで四半世紀前また「若手」とでいわれていた頃からのファンだ。女性でN響の第九を振るのは初めてらしいが、これまた時代が生み出したものなのだろうか。ペーローヴェン生誕250年の幕開けにふさわしく人間賛歌に溢れ、髪は天女のようにまばゆい光を放っていた。

昔「ミダス王の手に触れたものをすべて金に変えたい」という寓話を基にしたBBC制作の経済番組の邦画版に制作参加したことがある。「金」と「人間の在り様」は今さらに問われるテーマだろうか。勿論中身が豊かであれば「金」は輝く。無機質な小さなスマホ画面に振り回される毎日から解放され、大画面で見た金の光は美しかった。

「オリンピック」と「テレビ」そして
「この国のカタチ」

渡辺純史

昨年の大河ドラマ『いだてん〜東京オリムピック噺』は1964年の東京オリンピックが、日本の戦後復興と失われた国際的地位の復活を目指す、日本人の壮大な試みであったという歴史構造をはっきり見せ始めた最終盤になって、俄かに面白くなった。ドラマが面白くということ以上に、オリンピックを挟む1960年代から70年代の、わが青春の様々な記憶の断片を想起させてくれたからである。

オリンピック開催の1964年、私は20歳の大学生、仙台にいた。不思議とオリンピックのイメージは具体的ではない。多くの大会映像は、その時テレビの前で誰かと共に観て脳裏に刻まれたものではなく、後刻記録映画やニュース等で得たものだ。テレビ受像機はオリンピックの2年前の1962年、1000万台の受信契約数を超え、1964年にはカ

ラーテレビ台数は57万台、当時カラーテレビは16インチで17・8万円もした。大卒初任給が2万円程度の時代である。それでも当時の家庭の多くが、テレビの同時中継を楽しんだはずだが、親元を離れた学生は、周囲の誰もテレビなど持つはずもなく、オリンピックの期間中も普通に大学で講義を受け、友人の下宿で話し込み、学園祭の準備や当時学生の必需品であったマルクス本を求めて本屋巡りをしていた。1964年、高度成長の真つただ中のオリンピックの年は、60年、70年と2度に亘つた安保闘争のちようど中間の年であり、この時代は、まさに政治の時代でもあった。学生の関心は、この国、社会の行く末をどう考えるか、その中で自己をどう成長させていくかであり、それぞれが、己が執るべき主義や信条として政治的立場の表明を迫られていた(と、ドドキシシしながら感じていた)。その後、私も含め、この時代の仲間たちは、一人一人それぞれが微妙に異なりながらも、時代や社会に衝突したり捻じれたりしながら、56年後の今、現在の「なれの果て」となっている。

さて、そのオリンピック、今年になって、さらに政官民メディア総がかりとなった扇動が露骨である。アメリカが握るテレビ放送権がすべてを左右する商業オリンピックだから、テレビがムードを引っ張るのは仕方ないにしても、首相の施政演説に見られるように、政治家や国家がムードを引っ張る様は異様だ。

肝心の何かを覆い隠し、知らぬ間に国民を一つの流れに引き込む危険性がある。

実際にも、オリンピック一色のこの夏はどうなるのか。天候異常、新型コロナウイルスなどの影響で、尋常ならざる事態もあるかもしれない。また戦後75周年、被爆75年、その番組はどうする。私の知る放送局の児童劇団は、4月以降オリンピック放送のために局内の施設がすべて召し上げられ、稽古場がない。恒例の夏合宿も、マイクロボスや宿舍の予約が取れず、困り果てている。

頌春

伊藤雅浩

私は今年の年賀状に「56年ぶりに東京オリンピックが開催される今年こそ、この国のカタチを考え直す年にしたい」と書いた。世界中に自国第一主義がはびこる小児病的競争時代の今だけに、日本の国家だけが優れているとか、他国との対立を煽って国民の団結を求めようなどにならないよう、オリンピック一色に浮かれ立つ世に流されず、一人一人が自分の考えで、フィールドで競い合う世界の私たちの姿から、国のあらまほしきカタチを考えてみようではないかとの思いであった。と気張って言いつつも、56年前に比べ、76歳の老人はヒマである。やることを封じられ、だからとテレビの前に座る時間が増えるだけなのかもしれない。また、老人は怒りっぽい。せめて国のメダル獲得数にこだわり、熱くなることはやめよう。そして老人は涙腺がもろい。敗者を称えて、清く涙しよう。そして、オリンピックが去った後、まだ少しは生きて、お世話になる時間があるだろうこの国の、これからカタチを考えようと思っている。



放送スグラブ！フリード馬評座談会

―恒例、下馬評座談会をお届けします。グラブプリのノミネートの参考にさせていただきたいのですが、昨年9月号の消夏座談会でとりあげたもの、特に終戦特集についてはそちらを参考にしてください。話が番組以外へのあちこちに飛び、番組の放送順の整理しておりますがよろしくお願ひします―

A 今日の座談会の趣旨は、グラブプリに推したい人、番組について話し合うものだが、「今年度はこれを推したい」というものに乏しい。テレビは疲弊している、特にドラマは疲弊している」とも言われる。少しでも良いものを探し出したい。

B いつも総論風にこの1年何があったか、から始めるので、「年頭所感」にある前川英樹さんの「メディア関連事象」をもとに始めよう。

【メディア関連事象】

C まず「あいちトリエンナーレ」の「表現の不自由展」で、これは展覧会の展示の問題だが、やはり広く放送を含めたメディアの問題として考えたい。「表現の自由は全く無制限なのか」、『基本的に自由なのだ、条件付きの自由はあぶない』などの意見が出され、具体的には歴史認識との問題をどう考えるのが議論された。愛知県知事と名古屋市長が登場し、公権力が展示場を確保するとき公権力と表現者はどういう関係であるべきか、など重要な問題が提起された。これは今後も継続される論点だと思つた。

D もっと広く議論が行われるべきなのに、小さなところで行われて、小さな不自由展が行われて終わった印象だが…

A 活字ではかなり議論されたが、電波メディアでは少ない。

B 「目撃につぼん」(NHK・日曜午前6時10分)が11月に「激論の『ドリエンナーレ』」作家と市民の75日をやっている。これは非常に面白かった。不自由展が中止になった後、アーティストと市民と対話は日々続いていた。いろんな意見、反論が堂々と出てきて、それを丹念に追っていた。テレビは何にもやっていないといわれるのだが、こんな現場もあることを伝えておきたい。制作はNHKの名古屋局。知事や市長に話を聞くこととするアーティストたちの懸命な姿も追っていた。

C 「朝まで生テレビ」もやっていたが、表現の不自由なんて認めない論者がいてバカバカしい展開になった。

D 「クロースアップ現代」でも触れていた。「目撃につぼん」では作品の紹介はあったの？天皇を題材にしたものとか…

B 勿論です。いろんな作品があり、それを作った人たちがいる。いろんな意見を喋る場を作っていてその話も撮っていた。

C 慰安婦像の横に椅子を置くというのは優れた表現だと思うが、「それが痛々しい」「日本人として許せない」という意見もあった。

A 政治的公平は放送法4条にある規定だが、この規定は撤廃してもいいのではないかとの議論が起こっている。この真意は政府、権力の側からの情報も自由に出せるようにしたいのだとしか読めない。放送事業者は4条を残し

たい。このパドドックス論をどう組み立てればいだろうか。

B これはかんぼの不正販売についてのNHKの報道に対して、郵政の鈴木康雄副社長がNHKに圧力をかけたことがきっかけで、会長の責任をめぐって議論が起こった。

C 「ガバナンス」について言うと、編集権は会長にあることになるが、ご存知の通り現場は任されて覚悟してやっている。プロデューサーが「責任者は俺だ」と言つてこんな事態になったことについて、行政は現場に申し訳ないということも含めて意見交換をやるべきだ。

D NHKでも民放でも、ドラマでも報道でも現場は自分のやっていることは全部背負つてやるのだと教育される。そのことの責任は会長、社長にはないかというところ、ある。こんな機会に経営トップと現場がコミュニケーションを図るべきだ。

A その後どんなコミュニケーションがあったか知らないが、ガバナンスを知らないプロデューサーは稚拙だ、などと片付けられたくない。

B 放送法4条は、放送がいかに権力から距離を置くかを担保するものだとほとんどの憲法学者、放送法の専門家が言っているのだが、行政は放送のニュースがどちらに偏っているかを判断してこの条文を使い、違反すれば電波法によつて停波を命じることができるとしている。

C 放送法は戦後すぐアメリカの放送法をもとに作られている。アメリカの法律では政治的公平の違反に対してFCCが停波を命じることができるとの規定はある。しかしアメリカでは日常的にこの規定によるチェックをやっている問題だ。

D 放送はこんな問題になると新聞に比べて

一歩引いて考えることが多い。自分のことだときちんと意見表明すべきだ。

A これらの問題は公権力と放送の関係の問題だが、放送は時流に流され、公権力とまともに向き合っていない。

B しかし、現場には当事者として一途な懸命な人はいる。そこにカメラが寄り添った番組がある。どんな場にも当事者はいるのでそこにスポットをあてる力はどこかにあると希望を持っている。

C ネット配信の問題は解決したの？

D 解決したといえは解決したのだが、これを口実に総務省はNHKの経営に首を突っ込む。それがいやらしい。今時放送局のネット配信を制約する理由などあり得ない。しかし、NHKはそれでどういう情報提供をするのか、NHKと民放のそれぞれの存在理由はなにかといった議論が必要だろう。

A NHKはいまマーケティングや視聴者層拡大など民放と見分けがつかないものが横行している。NHKは本来視聴率ゼロでもやるべきものはやるべきところだ。しかしネット配信ではNHKの視聴者層、特に若い層を増やすためにこの発想のようだ。本来の出すべきものは出すとの公共のミッションをしつかり持つて同時再送信はやるべきだと思つた。

B 電波の免許条件の「あまねく普及」はかつて「地上波のどの地域でも」という地域的なものだった。それが「どんな情報端末でも」というあまねく変わった。「地域」は衛星放送ではたちまち「あまねく」だ。

C 技術革新の急転に気負けしているようだが、伝えるべきは何なのかのミッションを考え直すべきで、そうすれば民放との折り合いもつく。

D 世界的には、ヨーロッパ、ドイツではインターネットと放送を伝える媒体として同じよ

うに扱っている。日本の放送法は終戦直後出来たままで、守りたい部分もあるのだが、いずれは変わらざるを得ない。メディア全体で協力して議論して新しい道を探すことになるのだらう。

A 令和になって皇室報道が盛んな年であった。「天皇制をどう報道するか」は相当にデリケートな問題であろう。乱暴に言えば、君主制より共和制がいいだらう。しかし天皇制でなければ相当混乱するだらう。象徴天皇制は日本人の心理にかなり定着しているのだけど、その見直しなど踏み込んだ議論はマスメディアはなかなか行きにくい。どこかで向き合ってもいいのじゃないかと思う。

B 天皇祝賀会の式典で総理大臣が万歳三唱したのにぞっとした。また、この時代になるのかと思った。

C 「嵐」が歌った奉祝曲は「花は咲く」の菅野よう子。超党派の奉祝国会議員連盟が主催者のようだが、綿密に計画してお金もかけたイベントだ。誰がどう動いてできたのか知りたと思う。

D 天皇に関する行事は具体的には宮内庁の所管だ。そこへもつてくるのは内閣官房。官房長官が宮内庁担当だ。

A もともとは電通が持ち込んだ企画だらう。ジャーナイズがらみでやることも含めて…

B 象徴天皇とは何かについて憲法は何にも書いていない。政治家、内閣、そして皇族で作ってきたものだ。その中で今の上皇が戦後教育を受けた影響が大きい。

上皇は象徴の意味を何回か口にしている。
C 安倍政権にはそれが邪魔だったかもしれない。

D 前川氏があげたこれらのことはマスコミと安倍政権の関係で、間がほとんど詰められ仕切られ度合いが末期的なところまで来い

る。

A 戦後の抹消が意図されている。そんな中では「女優たちの終わらない夏 終われない夏」(NHKBS・11月10日放送、出演・渡辺美佐子、高田敏江、日色ともえ、大原ますみ、山口果林など)のような戦後の持った意味を継続する企画は大事にしたい。

新劇の女優たちを中心に何年も全国各地をまわって、朗読劇の形で原爆の話が続いている。今年で終わった。

B ドラマでは「あおさくら 防衛大学物語」がある。PRというかタイアップのドラマで、海上保安庁や自衛隊のパイロットを養成するところのドラマだ。あれで防衛大学は喜んだのかと疑問に思ったが、主役の髪が長髪はまだ。帽子をかぶって長髪はみだしている。役者の地のままなのか。やるならちゃんとやれと言いたい。

C 防衛大学はいまや服装や身なりなど規則はどうでもいいと思っているのではないか。かつては新入社員を研修のため入隊させたことがあったが…

D ラグビーは世界大会が始まる前、サンウルフズが情けない弱いチームで、これでは世界大会で日本チームが勝てるわけがないと思っていたが、意外や意外の勝ちっぷりで盛り上がった。

A 各地でやって観客の質の高さが世界に伝わった。日本にとって大変いい大会だった。釜石会場は台風でカナダ・ナミビア戦が中止になったが、選手たちがボランティアで災害地の救援をした。

B ラグビーは実に面白い競技だと認識した。パワーあふれる荒ぶれたものだが、サッカーと違ってヨーロッパの上質な教養主義とスポーツマンシップにあふれた競技だ。今の時代にうけるのだと思う。

C 終わってお辞儀をするのをニュージールランドチームが始めてそれを他のチームが真似し、それが世界に報道された。

D ボールを前に投げてはいけない、などルールはひねくれているが、ペナルティーのときなどレフェリーはきちんと説明して双方のチームが納得して試合を再開している。1チーム15名、双方で30名の選手を一人のレフェリーが裁くというのはなかなかの仕組みだ。

A 「ワンチーム」が流行語になったが、いろんな人種が一つのチームを作っているのはスポーツのあらま欲しき方向だと思つた。

B 2019年は、平成から令和に映る節目の年だが、世界的には天安門事件、ベルリン崩壊、など世界的な事件があった1989年から30年という節目の年だ。30年前、世界は冷戦を終え民主化の時代に入ると多くの人は希望を持ったが、現実には30年後、世界は「力による分断、対立」という理想とは真逆の中にある。その世界の30年の節目を意識し、現場をルポした二つのドキュメンタリーを推薦したい。

一つはNHKスペシャル「天安門事件 運命を決めた50日」。もう一つはBSスペシャル「潜入ヨーロッパ 強権政治の内幕」東欧

反乱 震源地に迫る」。後者は、30年前自由と民主化のモデルとなったハンガリー、ポーランドで、極端な右寄り政党が台頭し、強権政治がEUの根幹を揺るがしかねない自体になつている様子を市民、指導者に徹底取材したもので、調査報道の一つの原点を示したものだ。

C 昨年暮れに出た「足をどかしてくれませんか(冊記書房)が面白かった。「メディアは女たちの声を届けているか」と副題があり、メディアを担当している女性が少ない、お偉いさんが男ばかりだと、男に対して「あなたた

ち、私たちが踏みつけにしている足をどかして」と発言している。(年頭所感の菅野高至氏の項、参照)

D 脚本家については女性が圧倒的に目立つ。制作者も塚原あゆ子、プロデューサーの内山聖子さんとかどんどん出てきている。しかし、上がいい。

A 同じようなもので岩波新書に「女性のいない民主主義」が出た。男女同権と言っているけどまだまだそうじゃないという趣旨。著者は前田健太郎。東大法学部准教授で行政学、ジェンダー論が専門。

B ラジオ局ではニッポン放送に女性社長が誕生した。松原麻希さん。もともと次は彼女だろうと噂されていた。東京キー局に女性社長はまず目出度い。

【ドラマ】
C そろそろ番組各論に行きましょう。まずドラマから。

D 30分ドラマが目立つて増えた。年間で見ただけかわからないが、昨年10月をみると50分枠が25シリーズ、203本。連下ラは短いものでは5、6本、ワンクールでも11本が12本になつているので、そんな本数だ。30分枠は15シリーズで126本。割り算すると30分が週9・6本、50分が週15・6本、合計約25本が1週間に放送されている。印刷屋の三交社に脚本家とプロデューサーをつなぐ木佐さんという人がいるが、感想を聞くと「ドラマは増えている。30分はこのほか増えている。BSに増えている」という。

A 30分枠は民放では24、5分。見ているとどこまでがCMか中身かわからない作りが多い。

B 放送時間は夜11時台のものが多く。見る側も眠くてぼーっとCMか中身かわからず見ているのかもしれない。録画での視聴は多い。

C 将来のネット用のソフトなのだ。スマホの小さな画面で見るとは短時間のものがないのかな。
みんなで出資して制作委員会方式で作っている。

D ドラマでは「マンガの樹の下で」が配役が豪華で面白そうだと思っただけだが、脚本が不満。紀伊国屋演劇個人賞を受賞した長田育恵の作だそうだが若い。

A 「いだてん」は視聴率が低いままだしたが、終わりの方になって俄面白くなったという声もある。

B 低迷の犯人はいろいろだが、前半の主犯はたけしだろう。誰かが間違えた。

C それは作家だろう。「オリンピック斬」と名付けたのだから。

D それを止めるのが部長やプロデューサーだ。

A 夏の座談会でも出たが、主人公設定が間違った。嘉納治五郎を主人公にしていれば問題がなかった。最終的に弟子の神永がヘーシクに負けるところまでをやれば日本がよく見える物語になった可能性がある。それがオリンピックを作る側の話に行ってしまった。最初は金栗が出てくるが、どんどんほけてきて、さらに志ん生の話が出てきて三重に話が分裂した。

B 「麒麟が来る」は予定通りのスタートではなかったが、大河が持っている「主人公は誰か」をはっきりさせているし、これでダメならもうダメというくらいに戦国時代の定番を出している。大河は昨年が非常に特殊なケースで、今年は何とか大河の命脈は保たれるのではないだろうか。

C 脚本が池端俊策だし…
D 宮藤官九郎を評価する人もいる。若い人が結構見ていて、あのあっちこっち行くのを

面白がっている。昔から大河を見ている人には主人公がオリンピックに出る人、作る人、それを語る人に分裂して混乱するかもしれないが、若い人には新鮮だったのかもしれない。

A たけしは活舌が悪く、落語を知っている人は「あれは落語ではない」と拒否する。
志ん生を知らない若い人にはあれでいいのだろうが、志ん生を知っている世代には許せない。

B 後半中村七之助がでて、これがうまい。
C 宮藤官九郎はTBSラジオでレギュラー番組を持っているが、「いだてん」の話はギャグにしている。彼にとつて「いだてん」は極端な実験ドラマだったのだと思う。

D 「麒麟が来る」の評価は夏場を過ぎてからで、グランプリの対象にはならない。
A 脚本家では安達泰緒子が目立った。昨年テレビ東京のドラマ24「きのう何食べた?」、NHKの土曜ドラマ「サギデカ」、TBSの火曜ドラマ「G線上のあなたと私」の3本を手がけた。「サギデカ」以外はマンガ原作だが、日常的な会話の妙、オリジナリティーを評価する声は多い。「サギデカ」では「透明なゆりかご」に続く2年連続の文化庁芸術賞賞テレビドラマ部門の大賞に輝いた。今年の向田邦子賞の最有力候補と思われる。

B 昔から遊川和彦、大石静が好きで、遊川氏の「同期のサクラ」を推したい。高畑充希が主演、ゼネコンが舞台のお仕事ドラマだが、骨太で真正面からの作り。こんなドラマがやはりあっていい。大石静は「知らなくていいコト」(日テレ、水曜、吉高由里子主演、週刊誌記者の話でうまい。ベテラン作家健在なりと安心した。
C お母さんが秋吉久美子、その娘が吉高由里子という納得のキャストイングだ。昨年は「家を売る女の逆襲」と単発の「永遠のニシバ

〜北海道と名付けた男〜松浦武四郎〜」を書いた。
D マンガ原作が多いのは若いプロデューサーが力のある脚本家と真正面から向き合えないからだと思う。ディレクターとプロデューサーではディレクターが面白いと思うのだが、若い社員はプロデューサーになりたがる。どんなものを作りたいかでなく、プロデューサーになることが目的化しているから、ヒットしたマンガ原作を探す。何をやりたいかが希薄になっている。日テレの西さんは基本的にマンガ原作をやらないと宣言している。
A 編成の問題もある。原作がヒットしている、何万部売れているという企画として通りやすい。オリジナルは説明してもなかなか分かってもらえない。
B いま、大河にもテレビ小説にも助監督という名前の表示がある。これは外から来ている人を処遇するためのものだ。かつてA、D、Fなどフロアに這いつくばってディレクター、プロデューサーになるという形で育ってきたのだが、いまのA、Dはスタジオに入らないそう。
C 働き方改革で残業ができなくなると外部の力に頼る他ない。
D 「麒麟が行く」のNHKの公式ホームページを見ると、スタッフの名前が百数十人ずらつと並んでいる。外部の人を使うとそんな形で名前を出す。
A 岡崎栄さんが「少年寅次郎」の最終回でディレクターをやった。90歳近い。これは労働事情と関係ないか。
B 杉田成道が日本映画放送の社長を務めながら、70歳を過ぎてなお演出家としてドラマを作っている。2018年にはニッポン放送のラジオドラマ「ストリッパー物語」の演出で放送文化基金賞優秀賞に選ばれた。仲代達矢



八木康夫氏 新山賢治氏



隈部紀生氏 伊藤徹浩氏



三原治氏 前川英樹氏

主演の時代劇「帰郷」は藤沢潤平の原作を8Kで撮影し、2月8日に時代劇チャンネルで放送されるが、一部の劇場でも先行上映された。日本映画テレビプロデューサー協会会長も長年勤めた杉田の活躍はグランプリ特別賞に値する。

C 「帰郷」は面白かった。中村敦夫という怪優が物凄い芝居をしている。驚いた。放送はこれからで、映画のDVDで見た。

D 「ストリップパー物語」はつかこうへいの舞台をラジオドラマにしたのだが、あのドタバタ感はずいぶん面白かった。

A フジテレビヤングシナリオ大賞を放送人グランプリで表彰してはどうか。というのはあの賞から出てきた作家は「ごまんと」というのは、フジテレビは不調になってからもあの賞を続けそれが最近フジのドラマの底上げにつながっている。

B フジが新しいものをやろうとしていることは感じる。

C テレビ朝日の賞は500万円だが、何年前かグランプリを取った池田くんによると、受賞の後何か書けというフォローはいっさいなかったそうだ。フジはちゃんとフォローしている。

D さつき名前を出した安達奈緒子はフジの賞を受賞してから結婚し、出産ししばらくブランクがある。ブランクの間も声をかけ、しばらくして「やってみない？」といきなりワンクルで復活した。あのディレクターは偉い。

A テレビ東京のドラマビズは出来不出来があるが最近の「総合商社の女・ハル」はまあまあ出来。企業ドラマでテレ東のチャンネルイメージを全面に出している。ちゃんとしたヒット作が出て来て欲しいと思う。

B 「やすらぎの刻・道」は「やすらぎの郷」の続編で昨年4月スタート。主人公の石坂浩

二ふんする脚本家は変わらないが、主人公が書き進める「脳内ドラマ」が同時並行的に描かれる趣向が新しい。80歳代半ばを迎えて、これだけ長いドラマに挑み続ける倉本聡の創作意欲に脱帽だ。

C 八千草薫は亡くなったが、いろんな懐かしい顔が出てきて思わずみている。

D 昔の話と現在の老人ホームを行ったり来たりしているが、どちらかというと老人ホームの話の方が面白い。昔の戦前、戦中、戦後の苦労話は面白くない。倉本さんは書きたいのだから：

A 悲別が出てきたり、恨みつらみが出てきたり、自分史、テレビ史として面白いが、ネタバレの感じはある。

B 一定のレベルは保っているので見ているとそれなりに面白いのだが、新しさを感じない。古い俳優が出てくるのを親しみ深く見ている。

C 単発では桃井かおりが被害者になった「詐欺の子」。「サギデカ」よりこちらの方がさすがに桃井かおりだという感じだ。

D 制作はNHK名古屋。名古屋局はちよつと元気になった。NHKは3年くらいで人事異動があるので局に時々呼吸がある。大阪が良かったのになかなか名古屋だ。

A 昨年盛り上がった「科捜研の女」は？ 沢口靖子人気で賞のちよつと前まで行ったようだが。

B 放送人の会では「名作の舞臺裏」に登場してもらったから、いいんじゃないか。

C テレ朝の「ドクターX」がどうしてあれだけ人気があるのかわからない。木村拓哉の「グランドメゾン」の方が絶対面白いが、途中視聴率は10%を切った。

D 米倉涼子が数字を持っている。かつての時代劇に代わるものと言われる

が、編成がドラマ作りをわかっている。

B 座組がいい。役者のアンサンブルというか：

C 日テレは「トッポナイフ」天才脳外科の案件」で天海祐希を起用。米倉涼子を意識している。シリーズ化できたらの思惑がみえる。

D 最近独立系、アマゾンなどをみると、かなわれないと思う。かつて地上波で出来ないものという印象があり、際物が多かったが、最近のアマゾンはモダンラブなど王道のドラマが入ってきている。民放のドラマはいまのままでいい。

A ネットのコンテンツのために30分ドラマが使い勝手がいいのだが、その意味ではドラマは増えることはあっても減ることはない。

B ドキュメンタリーに行きましょう。

C ドキュメンタリーは7月、8月のものが多いから「消夏談話会」で取り上げたものが多い。

D 「ある特攻隊員の死と祖母と迎える兄の最期」(12月14日放送。こんな不条理な死に方の記録は何回も繰り返されないと戦後が継続されない。

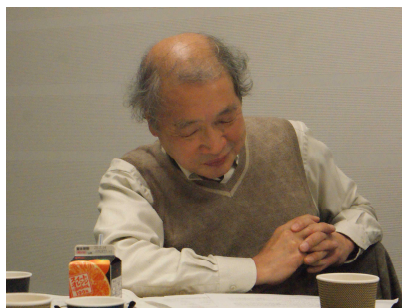
A 若いディレクターが自分の家族を調べた自分史の番組だ。

B 同じ時期にNNNドキュメント「つぐない〜BC級戦犯の遺言〜」(12月8日放送)がある。福岡放送の制作。朝鮮戦争を挟んでその前の人達はBC級戦犯で死刑になり、その後になるとアメリカの方針がかわり釈放される30分の短い番組だが若い女性のD(五反田鞠

亜)が丹念に取材していた。

C 開戦記念日の放送。NHKには開戦記念日にこの種の番組はなかった。

D BS1スペシャル「パレートの王子になる!」世界最高峰 ロシアパレエ学校の青春(9



吉田賢策氏



藤久ミネ氏



隈部紀生氏

八木康夫氏

新山賢治氏

渡辺紘史氏

月7日放送が面白かった。ワガノワ・パレエ・アカデミーに集まった男子の中の4人を追っている。パレエの世界の事情がよくわかる。世界から集まった生徒がどどんふるい落とされる残酷な世界だ。4人は天才肌のミーシャ、そしてマロン、容姿抜群のキリル、そして母親が日本人で足が短いアロン。アロンも最終的にはちゃんと卒業し「パレエには背が低い人にはそれなりの役がある」と送り出される。ディレクターは日本電波ニュースの高橋泰一。

A 日本電波ニュースでは谷津賢一（プロデューサー兼カメラマン）がEテレの「武器ではなく命の水を」医師・中村哲とアマガニスタン（12月7日放送）の制作者。中村哲さんの仕事は勿論凄いのだが、それに20年近く張り付いて取材した谷津さんも放送人として凄いです。

B 消夏座談会で取り上げられているが8月10日放送の「忘れられた「ロマン」」、一人50万のキャンパ、50万人で作られた映画「ヒロシマ」は注目したい。

C Nスベ「認知症の第一人者が認知症になつた」（1月11日放送）は、長谷川和夫さんという医師が率直に自分の症状を告白しながら認知症が進行する。身につまされた。

D ドキュメンタリーで自分が被写体になっていて、だんだん自分がわからなくなっていく。プライベート全部開放の密着を家族がよく許したと思う。印象に残る作品だ。

A 凄いい台詞にあふれている。脚本家は思いつかない。「神様の贈り物なんて言葉がある。泣かせる台詞だ。

B ドラマではあんな形では終われない。淡々と終わってしまう。秀逸だ。

C NNDドキュメント「海と島と美容室 人生を見つめる時間」（日テレ・1月11日放送）が秀逸だ。なんとなく見始めて最後まで見えました。

瀬戸内海の女木島（めきしま）という現代アート展をやっている島の海岸に美容室があり、海に向かってガラス窓が開いている。そこに向かっってお客さんが座って髪を切る。お客の前に鏡はない。美容師の玉木ひろ子さんは本土の美容室を息子に任せ、1年間限定で毎日島に通う。1年で236人と語り合う。自分も語ってお客さんも語る。実によかった。

そのまま終わればよかったのに、最後に大腿骨折で入院する。この部分は余計だが、ここへ行ってみたいと思った。

D N特やNスベはかつては作品性のあるもの、時代への提言のあるものをやっていたが、いまはそうしたメッセージを発信する力が弱くなっている。その中でBS1の「欲望の資本主義」は2017年からやってきて今年集大成を放送した。昔の経済学者から現役の経済学者までさまざまな人がインタビューされて喋りまくる。

A 放送された1月3日の未明、イラクのノレイマニ司令官が空爆で死去しているそのニュースと重なって時代の節目を感じた。

B テレビマンユニオンの丸山俊一が制作。

C ETV特集「すべての人々に尊敬を」緒方貞子が遺したもの」は、前に何回かやったものの総集編で、緒方貞子がどうしてあんなにたかがよくわかった。こういうものは残さなければいけない。

D 国谷さんが出てきてインタビューをし、肉声が聞けたが、頭のいい凄いなと思った。緒方さんやペシャワールの中村哲さんのような人が出てこない。日本は国際的にやっていけない。ああいう人が歴史を作っているのではないだろうか。

A 美智子上皇妃殿下と聖心女子大で同学生だ。

B Nスベは2年前は文化庁芸術祭参加にも

戦争ものを出してこなかった。今年度「二六六」など何本か見えたえのあるものが出てきている。「かくて自由は死せり」ある新聞と戦争への道」もそうだ。（消夏座談会参照）

C 東海テレビ「さよならテレビ」は芸祭で選ばれなかった。あの番組は自分のところの報道部にカメラを向けて汚点の部分も写したしている。映画にもなっているが、テレビの賞ではどこにも評価されなかった。

D 福井テレビ「聖職のゆくえ」働き方改革元年」が受賞している。学校の先生は非常に残業が多いが、残業代はもらえない。戦後すぐにできた給特法にしばらくいられている。この影響は生徒に及ぶ。先生の条件が悪くなっていくという教育が与えられない。この番組に教育の大本山の文化庁から賞が与えられたのは嬉しい。

A BS1スペシャルの「ポルトとダジャールマンホールチルドレン20年の軌跡」が芸祭グランプリを取っているが、これより「ボクの自序ノート」7年間の小さな大冒険」を買う。これも教育問題で、押し付けられた教育でなくいかに自分の発想力、創造力を育てていくかをテーマにし、現在の教育への批判にもなっている。

B ザ・フォーカス「さよなら前田有楽」成人映画館最後の日々」（RKB毎日、11月17日放送）は、北九州市八幡区前田にある有楽座映画館の閉館までの最後の日々。

C NHKの「ドキュメント72時間」はドキュメンタリーの一つのスタイル、フレームを与えたいと考え、様々な場所で定点観測し、長い時間をかけて（2006年から）定着した。

D 結構面白いものがある。これはその中のどの作品というのではなく、企画、72時間という設定の面白さを評価したい。

A テーマがあって、取材してというファイル

ムドキュメントではないテレビ中継の面白さだ。

B これはドキュメンタリーではないが、民放のBSで90分から120分のテーマ別のニュースワイドを各局がやっている。テーマにより局によりいろんな温度差があるが、地上波にない、二番煎じではないものとして評価したい。

C BSTBSの「報道1930」松原耕一が面白い。「サンデーモーニング」にも出演しているが、こちらが主役なので生き生きしている。

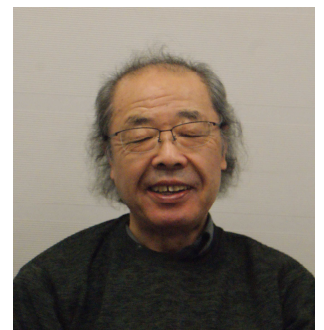
D 地上波より縛りが緩いので各局の特徴が出る。

A 「そもそも総研」（テレ朝「羽鳥モーニングショー」木曜日のコーナー）の玉川徹は最近切っ先が鈍ってはいるが、彼を「もうちょっと頑張れ」と励ましたい。

B テレ朝は自局の局員に最も先鋭的なことを



西村与志木氏



渡辺紘史氏

う？ゲストの問題発言はゲストを変えれば収まる。局員の彼に拘る理由があるのかな？

C 数字は取っている。

【エンターテインメント】

D バラエティー、エンターテインメントはどうだろう。

A クイズ番組が増えている。不況になるとクイズ番組が増える。編成は困るとクイズ番組を考える。現在クイズ番組では老舗のテレビ朝の「Qさま」とTBSの「東大王」がますます進化して作りがより深くなっている。

B 日テレの「あなたは小学生より賢いの？」はアメリカのクイズ番組のフォーマットをもらったのだが、面白く作っている。小学生を使った番組では「サンドイッチマン&菅田愛菜と博士ちゃん」がある。みんな大画面で、昔ながらの家族うけを狙ってそれぞれうまく作っている。

C 歌番組はBSでなつメロとか昭和歌謡曲番組が多く、高齢者世代としては非常に楽しい。カバー音楽も増えていて、これも楽しい。

D NHKBS、11月27日放送の「深読み音楽館」が評判になっている。シリーズ1の最初で井上陽水を取り上げ、MCが音楽家の安藤裕子。出演が高橋源一郎、版画家の山本容子などその道のプロが井上陽水の詩を読み解く。NHKの豊富な素材を使って昔の音楽を読み解く新しい切り口の歌番組だ。歌番組班のプロの業を見せてくれて面白かった。こういうものを2回、3回と重ねると楽しい番組になると期待できる。

A クイズ番組で毀誉褒貶の激しいのが「チコちゃん」。視聴率はいい。悪評はインテリからで「あんな事柄をなんで5歳の子供におしえられなくちゃいけないのか」という。

B 昨年グランプリで企画賞を出した。面白

くてためになるというNHKの定番をきちんと踏まえている。土曜の朝の再放送が14%。評価は高い。

C BSプレミアムの「たけしのこれがほんとのニッポン芸能史」をバラエティーの学習のために見ている。

D 2015年から不定期の放送。こんな番組があつたのかと思ひし、クイズ番組、グルメ番組など、テレビ論になつている。

A AIで作つた美空ひばりの評価はどうなのだろう？

B 気持ち悪くて評判は悪い。昔のものを見せてくれればいいのに、どうしてあんなに力を入れるのかわからない。

C AIが放送をどう変えることが出来るかやってみようという気になつたのだろう。表に出てこないところでAIは番組作りいろいろな形で活躍している。

D AIがアナウンスをする、AIでアイドルが作れる時代が来るかもしれない。どうなるのだろうと未来図を描く意図でやるのならいいのだが、AIの美空ひばりは秋元康の自然な加わり方を感じた。

A 「出川智朗の充電させてもらえませんか」が好調。出川はイジラれキャラだがテレビ的なタレントとして1級品になつた。鶴瓶に似ているのだが鶴瓶のいやらしさが無い。

B イジラれてナンボというところに開き直つていて、見ていて気持ちいい。

C かつては抱かれたくないタレントの代表今や好感度ナンバーワンになつた。

D 話を変えるようだが、麻薬、大麻の報道。これが露骨に一罰百戒。タレントや有名人の麻薬違反を警察がメディアに報道させることで麻薬取り締まりの効果をあげようとしている。

A それは今に始まつたことではない。麻薬

不倫、闇の営業が公になるとタレントはテレビから消される。タレントにそんな清潔さを求めておいて、それが求められない存在もある。

B 毎日新聞に江川紹子を書いてるが、俳優やタレントに対しても出演できないという制裁力が強すぎる。裁判所が下す判決以上の制裁を勝手にやる権限をテレビ局は持っているのか。

C 大麻を合法だと言つつもりはないが、タブーを作つてはいけない。そこはメディア自身が考えることだ。

D スノーボードの小久保和宏元日本代表が大麻で逮捕された。大麻は日本では有罪だがアメリカでは合法だと言つている。メディアはそれをどう考えるのかだ。

A スノボなど恐怖感のあるスポーツの選手は海外では怖さから逃げるためよくやつている。

B 大勢が「こうだ！」と一斉に声をあげている時に、「こんな考えもある」と示すのがテレビの役割なのだが、今は流れに乗つて同調し、自分たちの無謬性を主張している。

C 荻上チキは「麻薬は病気のからだ」と言う。病気に苦しんでいる麻薬患者に対してテレビで注射など麻薬をイメージさせる映像をみせるべきではない。ここらは変わってきている。麻薬はダメだ、と強く言われると麻薬患者は自殺に走る。

【ラジオ】

D 文化放送スペシャル「戦争はあつた」はアーサー・ビナードが日本の戦争の跡地、東京・巣鴨ブリズン、光が丘・成増飛行場、神奈川・相模原陸軍施設 現・相模女子大、文化放送川口送信所（元NHK送信所）、陸軍中野学校（中野警察学校）を訪ねる。きっかけは小松左京の短編「戦争はなかつた」で、これを読んで

思いついた。

沖繩や原爆など戦争の傷跡ではなく、戦争をしようとしていた加害者としての戦争の跡地を巡つた。巣鴨ブリズンは戦後の処刑場だったわけだが、あれが見事にサンシャインに変わつている。成増陸軍飛行場は戦後グラウンドハイツとして米軍家族の居住地となり、その後光が丘団地になった。光が丘の団地から公園へまっすぐ伸びる銀杏並木がかつての滑走路の跡だ。

陸軍中野学校は碑だけ残つている。中野はサンプラザ、サン・ロードと「サン」がつき、サンシャインや光などイメージを輝かせる名前になり、あつたものはほとんど綺麗さっぱり変えられている。

アーサー・ビナードはここに、現政権の「モリ・カケ」「さくら」に通じる、あつたものになつたことにする体質を感じている。

アーサー・ビナードはアメリカ人で敵国の立場だが、淡々と語つている。彼は戦争もの、災害ものを何本も文化放送でやつてきており、これまでも表彰の声があつたが今回強く推したい。

A J・WAVEの「SELECTION GENERATION TO GENERATION STORIES OF OKINAWA」はジョン・川平が父親の川平朝清にインタビューして、父親の生きざまを伝える。川平朝清は放送人の証言にも収録されていて、琉球王朝の末裔、親の時代に台湾に渡り、戦後沖繩に来て放送に深く関わっている。沖繩放送の初代のアナウンサー。その後ミシガン大学で放送のことを学び、沖繩に戻り、沖繩本土復帰で沖繩放送がNHK沖繩局になりここに勤める。沖繩というところで放送ということでも川平朝清の抱えているものは大きい。

ジョン川平は朝清とアメリカ人の母親の間

で微妙な国際感覚があり、冷静で素敵な番組になった。沖縄の音楽をいっぱい入れてこの選曲がいい。

B 民放連クランプリを取った南海放送「緊急放送 逃げる〜誰が命を奪ったか」。西日本豪雨の災害について国の賠償を求める裁判がまさに今日伝えられているが、番組はドキュメンタリー手法で災害の経緯を追い評価された。

C 緊急放流は事前に予告されたように思ったが…

D アナウンスは聞こえていない。

A 荻上チキは昨日、今日と沖縄レポートをやるが、昨年デモ隊との衝突の直前に乗り込んでいって現場レポートをした。そんな荻上チキを評価してもいい。

B 荻上チキはTBSラジオ「荻上チキsesshon22」のパーソナリティ。ネット評論に始まり、幅広い評論を評価されギャラクシー賞や民放連賞を受賞している。

D 彼を起用したのはTBSラジオの長谷川。TBSラジオはパーソナリティを育てるのがうまい。

A いや、ラジオは予算が少ないから、パーソナリティに大物が使えないので、時にプロデューサーが自分で出演し、それが結構面白い。長谷川も出演している。

C 先日「〇〇が〇時の時報をお知らせします」という時報のCMにスポンサーがなくなつたらしく、「TBSラジオの社長の入江です。〇時の時報をお知らせします」とやっていた。これはおかしかった。

【オリンピックなど】

D オリンピック関連の放送については政府はかなり強いコントロールをしてくるだろうからウォッチする必要がある。

A ウォッチしなくても目にあまる。開幕ま

であと〇日とずつとやっている。敗戦75年の節目の年だが、NHKでは今年終戦特集が出来るそうにないかと昨年多かつた

が、今年どうなのだろうか？

B 企画提案はかなり集まっている。

C 8月9日がオリンピック閉会式で、どうなるだろう。微妙だね。

D パラリンピックはその2週間後に始まり、その間はオリンピックの余韻の番組で埋まる。

A WOWOWで「Who I am」がパラリンピックの選手を追っている。よく出来た番組だ。オーストラリア人でアフガンで地雷で足を失ったなど、ワンカメで追うのでなく昔のフィルムで撮る感じで追っている。

B 美談が無理やり仕立てられることもある。そこを冷静に見極めたい。オリンピックは要注意だ。

C まとめの要らない座談会なので、まとまりのないままそろそろ終わりにしましょう。

D グランプリの投票用紙は準備して、この会報に同封し、3月16日締め切り、3月30日選考委員会。4月の理事会でオースライズして5月16日が授賞式というスケジュールです。

A どうもお疲れさまでした。

座談会の次第

日時・2020年1月31日(金)

午後2時〜5時

場所・千代田放送会館3階会議室

出席者・伊藤雅浩、隈部紀生、新山賢治

菅野高至、西村与志木、藤久ミネ

三原治、八木康夫、吉田賢策、渡辺紘史

書面参加・鈴木嘉一、鈴木典之

第48回 名作の舞台裏

29歳のクリスマス

—1994年・フジテレビ放送—

日時 12月14日(土) 13時半〜16時半

場所 横浜情報文化センター・情文ホール

ゲスト 山口智子(出演)

鎌田敏夫(脚本)

司会・中山和記(企画・放送人の会)

最終回の上映の後、ゲストが登場すると、客席最前列に野球の応援席で良く見るような「智子さん!」の大きなカードを持ったファンが「ギャー!」と大騒ぎだ。

司会 中山 みなさんこんにちは。紹介します。

山口智子さんです。

山口 こんにちは! (拍手)

しいのですが、山口智子さんが来てくれたので…

山口 頑張りましょう。

中山 まず、最終回をご覧になっての感想を伺いましょう。

山口 一度全部見かえました。自分の娘を孫をみている感覚で、全く自分とは思えない。ドラマに完全にのめりこんで見ました。全く面白いドラマです。(拍手) もともとテレビが好きで、テレビのおかげでグレずにすんだ人間です。感動しました。

言葉に本当に力がある。言葉で魂を揺さぶられる数少ないドラマの一つです。それは脚本の鎌田さんの力です。鎌田さんは本当に凄い。

中山 主演した人はそこまでは褒めませんよ。(笑い)

山口 25年経ったのだから、いいじゃないですか。今回、客観的に見たんです。

中山 じゃ、ゆつくり伺いましょう。とにかく鎌田さん一言。

鎌田 女性の気持ちがよく分かりますね、と言われます。僕、本当は女性なんです。(爆笑) というのは半分冗談で、あのドラマのとき、一番自分の気持ちを託せるのは山口さんがやった、29歳で、独身で、働いているひとだったんです。女性を書くのではなく自分の気持ちを託したので、山口さんが面白かったぞうで、嬉しいです。

中山 とところで、今、聞いていただいた、「オール・アイ・ウオント・フォー・クリスマス・イズ・ユー」はマライヤ・キャリーの歌です。これは世界中で大ヒットしました。しかし、この曲を主題歌に選ぶときはマライヤは全く無名の新人歌手でした。アルバムをアメリカで出したのですが、鳴かず飛ばず。向こうのプロモーターはこれだけの声を持っているのだから売れるはずだと世界中に売り込んだ。映画



山口智子氏

中山 鎌田敏夫さんです。

(鎌田さんお辞儀 拍手)

中山 あ、自分を紹介してない。プロデューサーの中山和記です。今日は司会を兼ねてやります。出席予定だったフジテレビの宅間秋史さんは、病気で残念ながら欠席です。少し淋

でもテレビでも提携してくれるところはないかとの売込みが日本へも来た。この情報をいち早くキャッチしてわれわれみんなで聞きましました。すると素晴らしい歌声です。他の曲も聞きました。やはりこの曲だと決めて、世界初のこのドラマでこの曲を使うという条件なら、と交渉するとマライヤ側は「何でもOKです。使っていたらなら」というので、このドラマが始まった1994年、ドラマのスタートの1ヶ月後に世界初の日本発売です。

ドラマのタイトルが決まっていなかったのですが、当時山口智子さんが29歳、これと主題歌と合わせると「29歳のクリスマス」のタイトルが決まりました。

山口 当時、クリスマスケーキと同様、24を過ぎると売れ残りと言われ、24歳が微妙な年齢だったので、それを29歳に繰り下げた。

鎌田 何かもつともらしいことを言っているけど、実はタイトルがなかなか決まらなくて、夏だったのに彼(中山氏)が大胆に「29歳のクリスマス」と言って決まったんです。

山口 結果的には29歳は微妙な年ころです。**中山** 当時も今も曲がり角の年齢です。そのヒロイン典子の生き方に影響を受けたと言っ人が多。この役を演じてどうですか？

山口 自分と同じ微妙な年齢の役を演じることで、自分自身も悩みながら、壁にぶつかりながら、「あつちになぶつかりこつちになぶつかり私は自分を生きてきたんだ」という台詞があります、まさに、リアルな、半分ドキュメンタリーのように、その時の私のすべてを捧げて、投影して臨んだという意識があります。

中山 等身大の姿を演じたということですね。**山口** はい。今日、ここに私をこの世界に入れてくださった菅野さんがいらつしやいます。全くのド素人を引っ張り上げてくださったんです。芝居をしたことがない、経験がない台詞

を言ったことがない、ただのその辺のおねえちゃんを朝ドラという舞台に上げた。**中山** その後われわれのドラマに出ている。**山口** 朝ドラが終わってすぐの「過ぎし日のセレナーデ」です。**中山** 田村正和が主演…**鎌田** 山口智子さん、出てもらいました。**山口** お嬢さんの役で…**中山** いい役者がいるぞ、と…

山口 何の話をしているんだろう。とにかく、素人で、どうやって感情コントロールをしていいか分からない。どうやって勉強したら正しい答えが出るか分からない。究極の素人のまま、捧げるしかない、やるしかない、とやっています。どうやって、みんなあんなにうまく出来るのだろう。学校に行けば出来るなら学校へ行きたい、と思います。

中山 どうですか？客席の「智子さん」のカードを持つている方、智子さんはうまいですよ。(拍手)



山口智子のファン

山口 いや、いや。その場の空気を生きるしか方法がない。そんなやり方しかできない。そんな29歳を使ってくれたさつた。

中山 この「智子さん」のカードを持っている人はどんな…？

山口 先日の「監察医朝顔」の発表会ときもお会いしています。(キヤー!)会場にきてい

ただいてありがとうございます。**中山** 追っかけ、ですか。よくわかりません。(笑い)**山口** でも世代的には私の娘でもおかしくない。**中山** なに？19歳？素晴らしいね。**山口** どうして？お母さんが見てたから？**フアン** 90年代ドラマの「ロン・バケ」を見て、死ぬほど好きになりました。

山口 ありがとうございます。(拍手)ご期待に応えられるよう頑張ります。**中山** 番組名が間違ってますね。90年代ドラマなら「ロン・バケー・ジョン」より「29歳のクリスマス」でしょう！(笑い)と拍手

話を戻しましょう。このドラマが現実とダブルたとして、その時の典子さんは今どうしているでしょう？

山口 典子のその後ですか：私は演じるというより、人生の基盤となるものをいただきましました。大好きな台詞「いま、ここにいる自分が好き。だから自分は世界で一番しあわせ」が魂に刻まれ、その後ずっと人生を歩んでいます。それを見てくださった方、そう思いながら生きて歩んだそれぞれの方のそれぞれの形で、世界と地球がなりたっている。

中山 典子さんを見て、あんな生き方をしようと思つた人たちは、演じた智子さんがそうでない生き方をしていると裏切ることになる。

山口 そのことを胸に、自分の人生を任切りたい。それで右にかじりついて、あつちこつちになぶつかりながら、いまたに歩いていきます。でも、このドラマには女の生き方だけでなく、男の生き方、男の羨望もあった。

中山 鎌田さん、男についてどう描きたい、というの？

ドラマを書くというの、それを書くというのでなく、ドラマを書きながらいま山口さ

んが言った終着駅まで自分をどうやって持つて行くか、というのがドラマです。ドラマは分かっていることは書きたくない。答えがあるものは書いてもしょうがない。答えを探しながら、特に連続ドラマは、探しながら何かを見つけて終われる。みんな自分のことなのです。さつき、女性でなく自分自身を書いたというのはそんな意味です。



鎌田敏夫氏

中山 ドラマという言葉はギリシヤ語からで悲劇と喜劇の間がドラマです。葛藤や人生のいろんな変化、行動を意味するのがドラマと言うギリシヤ語です。そのドラマを演じているということはもう一つの人生を演じていることです。そこには大きな影響力がある怖さがある。もう一つの人生があることをドラマを見ている人に押し付けるわけだから、怖い。演じているだけの責任ではありませんね。

山口 ちよつとわからなくなりました。(笑い)しかし、ある瞬間奇跡のようなことが起きていたように思います。私、やっていた自分が信じられない。みんなの力が集結して時代のエネルギーも集結して、奇跡が起きていた気がしませんか？

中山 その意味を探そうとこの「名作の舞台裏」をやっています。あの時代はバブルがはじけたときです。

鎌田 バブルについて書いたのだけど、あまり関係はない。覚えているのは、その頃の知り合いの女性が「私十円ハゲになった」と言ったことです。それまで私は女性が仕事のことでも十円ハゲになるなんて思ってもみなかった。男性については聞いていました。女性の十円ハゲは新鮮でした。僕の知らないことでした。それをトップシーンに持ってきた。あれがなかったらこのドラマはうまくいってなかった。その方も29歳でしたが、ドラマってそんな偶然が重なってうまく行くものなのです。

トップシーンで山口さんが雨のなかを走るシーンがありますが、カッコ悪いんです。あれがカッコ良かったらこのドラマはうまくいっていい。みつともない典子でうまくいった。僕がいるいる書いたからうまく行くということでもないんです。

中山 十円ハゲでキャラクターは見たのだけれど、実際にメイクで山口さんが十円ハゲを作るのは大変だった。

山口 今日、最終回をみて、どう乗り越えたのかわからないシーンがあります。最後、彩と20分ぐらい議論するシーン、あれは台本で16か17ページありました。あれを舞台のように、長回しで一遍に撮る。あの台本を頂いたのがその日の朝です。信じられない。不可能なんです。不可能なことをやっちゃっているんです。崖っぷちに追い込まれてもみんながその気になつたら成し遂げられる。そんな奇跡です。

中山 私は台本を待つて東武ホテルにいて、近くの澁谷スタジオで番組は撮っていた。鎌田さんは東武ホテルの隣に仕事部屋があった。私はホテルとスタジオの間を走って転んで、コピーしてみなさんに台本を配った。印刷じやない、生渡しです。その台本の20分に渡る台詞をその場で覚えるんです。

山口 その台本は朝いただいたいて、午前中、別の

シーンの撮りがあり、メイク直しの合間などに少しづつ長い台詞を覚えてお昼に臨みました。

中山 あれは練りに練ったシーンなのかな？

鎌田 いや、あれは最初から、1回目から書こうと思っていた。あのシーンに向かって行くうと思っていた。松下由樹がたまたま出来た子どもを生みたいという。それは気持ち悪いとみんなが反対する。それをどう説得するかでホンが遅れたんです。

中山 男女友達というのがあります。そこにあるのは友情です。セックスはそうでなくて男と女です。柳葉敏郎が炬燵に入っていて、ごちやごちやとした気持ちを持つて行きようがないくて、友情の線を越えて松下由樹に迫る。これはオスの行動です。

山口 なにか生々しい話になってきた。男と女の友情の話をしたのですか？

中山 いや、男と女の友情の線を越えることが気持ち悪いと反対したのです。折角深い友情の関係で来たのに線を越えて、それで子どもが出来ちゃうというのは、一般の視聴者は許しません。やめましよう。しかし鎌田さんは「忝然問題ありませんよ。分かってないなあ」と…

鎌田 いや、いや。分かってないのでなく、「気持ち悪い」とか言ってくれる人がいるのが大事なので、そんなひとを一所懸命説得するために最後のシーンを書くのです。凄く大事なんです。

中山 結果として気持ちが悪いのを乗り越えた。

山口 男と女の友情って、微妙ですね。

中山 私は潔癖な男ですから、女の子のところに男女友達を泊めてあげる。それはなにもないから「いいよ」となる。それから何かあったら友達じゃない。それを鎌田さんは平気でぶち壊す。

鎌田 だって、エッチしてから好きになることあるじゃない。

中山 分かりません！（笑）

鎌田 ABCを辿って行くと、Hの次にI（あい）がある。（笑）

中山 鎌田さんと飲んだりするとそんな話で、鎌田さんはHの後にI（愛）だと言い、私は愛の後にHだと…どっちか、答えを出してください。

山口 だって、ABC：H Iだから。

中山 もうやめよう。

鎌田 シェアハウスはこの白金はハシリですね。

鎌田 いやシェアハウスは「俺たちの朝」でもやっていて当時そんなに珍しくはない。

中山 あれ、どうやって決めたんだっけ。

鎌田 ロケハンに行つてあそこにこのドラマにぴったりの古い洋館があったのでそこしようと思つたのですが、3人が住むには普通の日本家屋にしたかった。それでさがしていたらたまたまあそこにあつたのです。福沢諭吉の孫にあたる人の家です。いわゆる下町でやりたかった。ちよつと行くと賑やかな通りがあるところの奥。

中山 偶然見つけました。

山口 うちの雰囲気良かった。顔を合わせざるを得ない状況。携帯のない時代で会いに行かないと何もことが始まらない、帰ってくるのを指くわえてまっていけないとその人に会えない。待つという時間を誰もかもどかしく思いながら持つていた。当時は面倒くさいと思つたけれど、あれが大切な時間だった。ドラマが生まれるにはあの時間が必要だった。

中山 いま難しいのはそこで、携帯があるからすれ違わない。

とところで、典子さんは一人の男性、近藤さんと仲村さんとききあつてますね。

山口 はい。近藤さんが演じた長堀のバブリーな時代の男と…

中山 なんてあんな男が好きなの？

山口 そんなこと言われても…男性の登場人物も面白かった。近藤さん演じる長堀の「人生は祭りだ」という言葉が印象に残っています。

鎌田 あの人が演じたから良かった。あの人がマツキンレーでトランプを吹いているドキュメンタリーを見て、あの人になりたいと中山さんに言った。役者としてはうまい人じゃない。しかしうまい人がやつたら中年のあんなリアリティーは出ない。

山口 それから浅葉を演じた竹下欣伸さん。あの人はほんもののミュージシャンですね。

中山 クライズラー&カンパニーのメンバーです。

山口 ドラマの中に痩せていたころの葉加瀬太郎さんが出ている。

中山 彼がクライズラー&カンパニーのリーダーだった。彼を選ぶためにSONYのコンサートへ行きました。

山口 それぞれ、俳優には出せないリアリティーがありました。

中山 ドラマの中で彼は自殺しますが、あの感覚は分かりましたか？

山口 本当に悩んだのですね。そして、突然拳銃が出てくる。拳銃は実生活に全くないものだから、それをどうすればいいのか全く分からなかった。拳銃自殺、男が死ぬということは全く理解出来なかった。私は凄く悩んで、泣いた覚えがあります。

鎌田 あの時、「話したことがある」というので会つたんです。実はドラマの中では最初死んでいたので。しかし、そうだと後が出来ないと言われて書き直しました。

中山 鎌田さんはドラマの神髄はおんなと拳銃だ、と言います。

山口 え？どんな神髄なんですか？

鎌田 僕が言っているんじゃないんです。フリッツ・ラングという映画監督が言ったんです。女はセックスで拳銃は死です。セックスは生で、つまり生と死です。サルトルは存在と無ですね。

中山 それとつながるかどうかわかりませんが、彼のダイナミックな美学からすれば死ぬ方法は拳銃しかなかったでしょうね。

山口 拳銃が出てきたときはびっくりしやうた。どこで入手したんだろう、とかいろいろ考えちゃった。

中山 典子さんが人生のケリをつけるのはどうするのでしょうか？

山口 え？ケリですか？

中山 最終回の台詞の中にあります。

鎌田 そんな台詞ありますか？

中山 鎌田さんの他のドラマにもあります。自分自身に決着をつける意味です。

山口 自分で納得できる人生のための決着であり、決闘。自分自身への覚悟ですね。

中山 仲村トオルのようないい男に「待っててくれ」と言われた…

山口 私「200年でも待ってる」と言ったんです。帰ってくるかどうか分からない男ですけど、200年待っている。どうですか？いい台詞でしょう。(笑)

鎌田 そう書かせてくれたのが役者さんです。自分一人ではそんな書けない。200年と言っても大丈夫だという、山口さんと僕との二人の相性みたいのがある。それで「100年」と書かない。

山口 普通100年ですね。「100年かかって俺は帰ってくる」…

鎌田 台詞は一人で書くものじゃないんです。キャッチボールしながら、ギョツとボールが返ってきたらうまく行く。投げたけどボールつ

と返ってきたり、暴投になったりするドラマがときどきある。それはうまくいかない。

山口 じゃ、ドラマの1話、2話ができると、それを見て修正して書き直す？

鎌田 そうです。だからホンが遅れる。(笑)修正しながらだんだんピントが合ってくる。4回くらいで合うとそのドラマはうまく行く。4回までにあわなくてピントがぼやけているとそのドラマはダメ、おしまいです。

山口 思い出に残るシーンはラストシーンは勿論ですが、3話くらいに1山、ひどく辛かった記憶があります。いろんなことがあって口惜しくて涙がでた。女二人がだんだん口惜しくなって、悔しさの頂点みたいところが3話で、そこに賢ちゃんが出てきて「悔しいけど、頑張る」、そしてそれぞれが大きい溜息をついて、でも頑張ると上を向く。あのシーンが私にとってはリアルな瞬間だった。

鎌田 あれは水戸の芸術館に行行ったんです。「キスキスキ」とびついて了解を求めに行った。

山口 名言、心にささる名言が毎回ありました。少し書きだしてきたので紹介します。

「友達は大車。友達は邪魔」

「こうして子どもは大人になって行く」

「足の傷心の傷、傷だらけのわたしが好き」

「大声で叫びたいことがある。なんと叫んだらいいかわからない」

「あした元気になあれ」

鎌田 俺もいいこと書いてるね。(拍手)

山口 まだあります。

「いまでも続く幸福をください」

「共通の敵はひとを幸福にする」

「二度のキスで夢中になれたころがあったのに」

「歳だけおとな、心はガキ。いつまでも子どもでいられたらいいのに」

「人生いいこともあれば悪いこともある。ま、いいか」

「別れではない。別れではない。別れではない」いやあ。いいなあ。日本語の素晴らしさ、古典詩に入ります。

中山 「わたしの人生が好き」という言葉は鎌田さんがつきあっている女が言ったとか。

山口 五七五とか標語みたいなのもあります。「自分は自分の力で生きてきた」はさっき言いました。「自分の足で歩いてきた。あつちがぶつかり、こつちにぶつかり生きてきた。傷をいっぱい作って生きてきた。頭に十円ハゲ作りながらそれでもなんとか生きてきた」「高い所のものを自分で取れるし、自分で買う」

鎌田 その台詞はあなたが背が高かったから。松下さんはちよつと年下だけと言いつつ、あそこ「一緒にいる。三人並ぶと柳葉がちよつと低いくらい」。

山口 最終回の「今ここにいる自分が好き。だからわたしは世界で一番いいあわせ」。その後「絶対に、絶対に、絶対に」と続く。あの意思表示という宣言。

中山 悩む中であれを出そうと鎌田さんと相談した。

山口 振り返ってみると毎回よく食べていましたね。

中山 鎌田さんがつきあった女性はよく食べるんだ。

山口 食べるって、生命力ですね。

鎌田 二人があんまり食べるから気持ち悪いと言われた。

山口 体も心も求めていた。満たすために。それからキスシーンが、正統派のこれがキスというシーンが多かった。

鎌田 ありました。

山口 こんなキスシーンって最近あまり見かけない…

中山 モチーフの一つなんです。男女の家庭を描く過程で区切りなり、何らかの関係なりを表現する手段です。台詞だけでは出てこないものがある。

山口 キスシーンには中山さんのリクエストが入っていたわけだ。

鎌田 キスは横浜を舞台に「大人のキス」をやったことがある。これはどこでもやたらにキスをする。

山口 シチュエーションを含めいろんなキスですね。

鎌田 そう。実に面白かった。

山口 ドラマでも映画でもいいのですが記憶に残るキスの名場面がありませんか？

鎌田 「生活の設計」という古い映画があります。ゲリー・クーパーとフレデリック・マーチの二人のスターの間にスターの女優がいます。この女性があつちに行ったりこつちに行ったりするドラマです。こつちが留守のときでちやったり、あつちが戦争へ行くときちやったり。その最後のシーンはタクシーに乗っていて、二人の男の間に女がはさまってフレデリック・マーチとキスして、そして、エンドマークです。これが一番記憶に残っているキスシーンです。

山口 謎を残しながらの終わりですか？

鎌田 決着がつかなかったんです。

山口 両方の男にキスして、男たちの表情はどうですか？納得しているのですか？

鎌田 納得しているような、していないような。しかし、キスは大事ですよ。

山口 そろそろ質問や感想を伺っていい時間ではないでしょうか？

中山 そうです。1とりあえず1回受けましよう。どなたか…

客席①男 30年前から山口さんのファンで

す。昔TBSの「東芝日曜劇場」で「スイートホーム」の役の名前覚えてますか？

山口 覚えていません。

客席① 若葉です。うちの娘の名前が若葉です。ドラマの役名でつけました。25歳になります。秋生まれなのに何故「若葉」なの？と聞かれ、若葉のように育つて欲しいからと誤魔化していました。中学生の時ママがとうとうパパが山口智子さんが大好きだったからとバラしました。今日は山口さんに会えて関西から来た甲斐がありました。

中山 もう一人生まれたら典子にしてください。(笑い)



客席・質問の挙手をする人がいる

客席②女 テレビドラマを小さいころから見て育った世代ですが、面白いな、心揺さぶられる作品だな、と思うと脚本鎌田敏夫と書いてあって、昔から本当に好きでした。今私はシナリオ教室で勉強していますが、「29歳のクリ

スマス」は今見ても、ぶれていないし、心がゆさぶられます。今のドラマは展開が早くて私は面白くないと思っています。今のドラマをどうすればいいとお考えでしょうか？

鎌田 今のドラマについては何にも思っていないです。ひとのドラマをどうこう思うことはないんです。それより、これからやる仕事で頭がどうやろうかと考えています。ひとのドラマはうまいドラマはうまいと感じしますが、批判する目で見たいことはありません。

山口 鎌田さんが影響を受けたドラマとか映画はあるでしょうか？小さいとき見た、自分を形作ったものは？

鎌田 小さいとき見たのはマンガで、ミッキーマウスやベティちゃんです。うちにフィルムがあつて戦争中それを見ていました。うちの親父が8ミリを買ってきて、それが映像体験の最初です。

山口 それは台詞や音楽は？

鎌田 音はない。全くない。
山口 私も鎌田さんのドラマを見て育った世代で、本当に影響された。「男女7人」とか、もう！私の青春でした。「太陽にほえろ」も書いている。私は「太陽にほえろ」に人生を教わったとおもっています。

客席③女 私は99年生まれで、智子さんがドラマにいつばいでてらっしゃったころタイムリーに見ることはできなかったのですが、その後見て、智子さんのドラマはみんな好きで、智子さんが好きになれて良かったな、と思います。

山口 何が面白いですか？特に90年代のものでは？

客席③ いまのドラマは少女マンガのようですが、私の知らない時代の現実の物語が面白い。携帯がない時代の現実を知るのが楽しいです。

です。

山口 (溜息)

客席④ 山口さんこんにちは。横須賀から参りました。私はバブル世代、十円ハゲの世代で、バブル時代山一証券で朝8時半から夜12時半まで毎日残業で、帰る電車もなくなって、支店長からタクシー券を買って帰る日々でした。山一証券の総務部は十円ハゲになっている人が多かった。このドラマを見て「ああ」と懐かしく思いました。山一証券には「危ない刑事(アカ)」で中村トオルさんが来ました。柳葉さんとは横須賀で偶然犬の散歩で会いました。私は山口さんと同年で、同窓会に出る気分できました。娘は22歳です。これからも元気で活躍なさることを楽しみにしております。ドラマにも沢山出てください。

客席⑤女 横浜から来ました。参加でき本当に嬉しいです。私がこれを見ていたのはちょうど結婚した年で、24歳で仕事もしていたので、物凄く感情移入しながら見ていたの思い出します。ドラマが終わったとき、これからどうなるのだろう。生まれる子どもはどう育つて行くのだろう、と物語物凄く考えました。25年経つたいま、あのドラマの25年後の企画があつたら山口さんは演じますか？鎌田さんは書きますか？もしイエスなら、山口智子さん、松下由樹さんそして生まれたこともはどうなつていたらいいと思うか聞かせてください。

山口 深い質問ですね。この番組、オープンニングと最後に一般の人の写真がしゃんしゃんしゃんと出ます。答えはたぶんあれなんです。それぞれの人に託されているドラマだと思いません。私自身はこれを演じた以上絶対恥ずかしくない、世界で一番自分が好きでいる自分だ、というふうに生きてこられた。ストーリーのそれぞれに写真の「こまこま」が投影されていきますが、そういうことだろうと思いません。あの写真は実際撮影して、それぞれ許可をとったのですか？

中山 取った。著作権は問題ない。

山口 街で追っかけて行って撮って、許可を貰った？

鎌田 ADが走って行って「放送するんですけどいいですね」と許可を取るのですが、最初は難しかった。放送が始まってから楽になったそうです。ADから聞きました。

中山 あれはときどき取り替えました。これからの人生の答えはそれぞれが出ず、というのが典子の答えですね。

山口 それぞれの人生の宿題も提示されたドラマだったと思います。それぞれの答えがあつていい、それぞれのやり方があつていいと思わせてくれたドラマです。ひとの真似をすることはしない。自分の色で、自分だけの大切な色が輝かせよう。それからの人生はそれぞれが思い描き、それぞれで勝負して、何億通りもの答えを作っていたきたい。子どもができてどうなったかなあ、といろんなケースを私も考えるけど、それぞれ面白い答えを出して教えてください。

客席⑥女 山口さんと同年代です。私の29歳は結婚、出産とはばたかしていた年でした。そしてこの番組の再放送を毎年楽しみにしてきました。フジテレビの方にききたいのですが、ここ数年再放送がされていません。子育てが終わって3時から4時の再放送枠を楽しんでいるんですが、今後再放送の予定はあるのでしょうか？

中山 ありますよ。フジテレビの局長が来ていますが、どうですか？

局長 伝えておきます。(拍手)
山口 私も、家で見たい。絶対見たい。マライ

ヤ・キャリーの歌があるためDVD化されて
いないのでしょうか？

中山 DVDが難しいだけで地上波はマライ
ヤ・キャリーも認めています。そんな契約条件
です。

山口 では、毎年クリスマス時期に恒例で
やってください。(拍手)でも、本当に元気が
出るもん。

中山 19歳の方にそう言っていただけある
りがないドラマです。ありがとございます。
29歳の次は39歳ですか？

山口 59歳くらいでしょう。(笑い、歓声)
鎌田 人生の曲がり角は、49歳、59歳とあり
ますね。

客席のフジテレビ関係者 FOD、フジテレビ
オンデマンドで見られることも出来ます。

中山 地上波でローカルで放送しているところ
はあります。

山口 FODもいいけど、お茶の間に流れて
くるのを見るのがいいのよ。(拍手)インター
ネットでなく、テレビの文化、いまお茶の間と
言わないかしら？お茶の間の文化でしょう。

客席の女 同時代で見えないので当時の放
送後の反響、どんなアイテムが売れたとか、反
響について作り手側はどんな意識だったのか
を聞きたい。

中山 反響は書いたひとでしょう。鎌田さん。
鎌田 僕はこれで向田邦子賞を貰い、その年
の放送部門文部大臣賞を貰いました。(拍手)
反響は凄かったですね。師匠に「油断したら賞
をくれるから油断するな」と言われて駆け出
しのころで何にも分からなかったのですが、
賞を貰ったら分かりました。後がなかなか難
しい。10年くらい低迷して、最近やっと良く
なったかなと思います。

山口 モチベーションというか、新しい素材
を見つけたら、仕事に突進して行く好奇心、興

味をどうやったら生き生きと保っていきけるの
でしょう。

鎌田 自分では分からない。
山口 仕事をしながら見つける…

鎌田 いや、ひとに会うことだと思えます。
山口 こんな書いて、と言われたとき、凄く
苦手な分野だったりすることもある？

鎌田 苦手だったらやろうかな、と思う。自分
のコピーはしない。自分がまだ作ってないも
のをやろうと。プロデューサーには「お前もつ
と偉くなれ」と言われたことがあります。と
りどめないものしか書いてないからあまり偉
くないです。

中山 テレビの作家代表としては山田太一、
倉本聰が表に出てくるが、鎌田さんは表舞台
でなく舞台裏で仕事をするのだと強く意識し
ておられる。従って取材を受けても写真撮
られるのをひどく嫌う。表立って顔を知られ
て有名人ぶるのはいやだ、そんな感覚でもの
を書きたいと、すぐ後ろに引つ込む。「金曜日
の妻たち」一男一女7人…など日本を代表する
ものを書いてこうです。寡作なのに有名な作
家もありますね。(笑い)

山口 話をさっきの反響の話にもどしましよ
う。

中山 智子さんの周りではどうでしたか？

山口 アデイダスのトレーナーが流行ったと
聞きました。

中山 テレビ局へは大変な反響で、視聴者セ
ンターへの電話が凄い。手紙は広報で専任の
人が毎日山のように届くのを整理していた。
年を越えても「再放送でみた」「DVDで見た」
「感動した」「私もあのように生きたい」…「こ
んな悪品を作った中山和記さん」とつきあいた
い…。(爆笑)そんな反響でした。

最後に一言ずつどうぞ。

最後は一言ずつどうぞ。

最後は一言ずつどうぞ。



中山和樹氏

ラジオのページ

ネットとの連携がラジオの危機を救う

田中秋夫

放送人の会々報(N086号)で放送作家の
石井彰氏が「ラジオの危機をどうするのか？」
と題する一文を寄稿され、民放ラジオの経営
危機に言及された。

ラジオの聴取率調査で首都圏のセットイン
ユースが5%台を割り込んだこと。また各局
で営業売り上げが「前年割れ」が当たり前にな
っていること。その結果、ラジオの人員費と制
作費が大幅に削られて番組の質が大きく低下
し、さらにリスナーを減らすという「負のスパ
イラル」に陥っている。この現実を踏まえてラ
ジオは今後どうすべきか？以上が石井氏の論
旨だった。

事実、ネットの普及によって民放ラジオは
大打撃を受けているのが現実である。

しかし、ラジオに限らず全ての既存マス媒
体が大きな影響を受けているのも現実である。
新聞、雑誌、は購読者が減少し、若者の活字離
れが顕著になっているし、TVも視聴者離れ
に歯止めがかかっている。

電通が毎年2月に発表している「日本の広
告費」の最新データによれば、総広告費は前年
比2.2%増の6兆5300億円となり、7年
連続のプラス成長になっているのだが、マス
コミ4媒体は全てマイナスで、インターネット
ト広告だけが116.5%と5年連続の2桁
成長で伸びているのが現実である。

そこで「何故インターネット広告費が伸び
るのか」を考えてみる必要がある。広告主が望
んでいるのは「提供する商品やサービスのメ
ッセージを訴求ターゲットを効率的に絞り込
んで伝えられる媒体」なのである。インターネ

ネット広告は個々人の検索履歴や購買記録から関心や趣味を推定して広告を打つことが出来る点でマスコミ4媒体には無い強みを持っている。このような視点で考えていたところ1月29日の朝日新聞の「ラジオアングル」に放送ライターの家誠一さんがTBSラジオの挑戦取材した「ネットをどう使うのか」と題する記事を見つけた。

石井氏の問いに対する1つの回答になると思っている。ここに紹介しようと思つた。

このレポートによればラジオがインターネットのラジオでも配信されるようになり現在全国でパソコンやスマホでラジオを聞いている人が1日約140万人いると言われている。その結果、ネット上に様々なデータが集積され、ビッグデータとしての分析を可能にしたという。

その為にTBSのラジオスタジオには刻々と変化するネットの聴取者の実数が表示されているという。

例えば「森本毅郎のスタンバイ」のリスナーはワンボックス系の車が好むという聴取者の属性が捉えられるようになった。その結果、その車のCMを番組で流せば効果的だという。同社の三村社長は「これは新聞、雑誌、TVというトラディショナルなメディアには出来ないこと」と言う。

このレポートは最後に「インターネットは個人が専ら検索によって情報を得ていることを逆手にとつて、その人好みの情報を送り、内なる欲望を引き出し、行動へと促すことも出来る」と結んでいる。

ラジオはこれまでもリスナーのハガキやメールからリスナー像を描いてきたが、インターネットと繋がることでより正確にリスナー像を描くことが出来るようになってきている。そのリスナー像に向けて的確な情報を発信する

ことで、より確実にリスナーを増やしていけると思われる。ここにこそラジオが生き残るヒントがあるのではないだろうか。(放送人の金理事)

父から子へ語り継ぐ沖繩の物語

放送は原点に戻れ

三原治

第16回「聞き酒の会」を1月27日(月)16時〜18時にJ・WAVE会議室(六本木ヒルズ)をお借りして開催した。ラジオプロジェクトのメンバー10名が参加。試聴したのは、J・WAVEがいま注目するさまざまなトピックをお届けする日曜夜の番組『J・WAVE SELECTION』。2019年6月23日(日)22時〜22時54分のオンエアでは、「GENERATION TO GENERATION OF OKINAWA」と題して、ジョン・カピラさんがナビゲート。カピラさんの父で現在91歳の川平朝清さんは、戦争を経験し、終戦後に沖繩で放送に携わった。当時体験し感じたことを、息子カピラさんが訊いた。

オンエアの2019年6月23日は沖繩戦の終結から74年目の「慰霊の日」だった。

国内最大級の地上戦となった沖繩戦の終結から74年、本土復帰してから47年を迎える。2019年においても、沖繩は基地問題で揺れ動いている。令和の時代になった今、改めて沖繩の問題に向き合い、考えていくことが重要だと番組は企画された。戦後の沖繩の歴史を知ることで、沖繩への理解を深め、現代につながる問題について関心をもってもらうための番組である。

終戦から沖繩の本土復帰まで沖繩に在り

れ、その歴史を報道する側からみてきた朝清さん。朝清さんがその時代に体験し、感じたことを息子であり、父と同じ報道する立場の職業を選んだカピラさんに伝える意味のある番組。激動の時代の沖繩を見てきた朝清さんに息子であるカピラさんがインタビュする形で親子対談は進行する。番組のテーマは「次の世代へ語り継ぐ沖繩」である。

朝清さんのプロフィールを紹介する。琉球王朝の血を引く川平家で、父・朝平、母・鶴子のもと、7人兄弟の末っ子として、1927年、移住先の台湾で生まれる。台北高等学校在学中に動員され、6カ月で敗戦。沖繩に家族で引き揚げ、兄の朝甲とともに戦後放送の立ち上げに尽力。アメリカ・ミシガン州立大学に留学後、沖繩に戻り、アメリカ人のワシントン・ウィバーと結婚。「琉球放送」放送部長、常務などを歴任後、「沖繩放送協会」初代会長となり、その後、NHKに吸収合併されるまで務めたあと、NHKで経営主幹。退職後は、昭和女子大学文学部教授。現在、同大学名誉理事・教授である。

朝清さんは、戦後アメリカ軍が沖繩に開局したラジオ放送局で日本語アナウンサー第一号となり、終戦直後アメリカ統治下の沖繩の姿、本土復帰などを身をもって体験し、その様子を伝えてきた。

オンエア日の6月23日は「沖繩慰霊の日」。昭和20年(1945年)4月1日、アメリカ軍は慶良間諸島に続き、沖繩本島に上陸。日本軍との間で激しい戦闘が行われた。亡くなった方の数は、アメリカ側で1万2、500人を超える。そして、日本側は軍に属さない民間人も含め18万8、000人を超える人たちが亡くなったとみられている。このうち、およそ半数は非戦闘員の一般市民だった。

昭和20年6月23日、日本陸軍の牛島満司令官が自決。自ら命を絶ち、日本軍の組織的な戦いが終わった。しかし、沖繩など南西諸島の日本軍が全面降伏に調印したのは9月7日。つまり、6月23日の後にも、戦争で亡くなった方が多くいた。「沖繩慰霊の日」は、犠牲になった方々に祈りを捧げる日だ。

戦後、沖繩は昭和47年(1972年)の本土復帰までアメリカ軍の直接統治下に置かれ、日本の政治、経済、法制度、さらに文化面から切り離された状態に。そんななか、沖繩でラジオ放送の立ち上げ、そしてその後、テレビも含む沖繩の放送に深く関わったのが、カピラの父である川平朝清さんだ。

激しい戦いの末、焼け野原と化した沖繩。アメリカ軍の統治下に置かれた沖繩。そんな沖繩でのラジオ放送はどのように始まったのか。そして、どんな思いを込めて、どんなことを伝えてきたのか。朝清さんの話に引き込まれる。

1949年にアメリカ軍政府が始めたラジオの日本語放送局が開局し、アナウンサーになった朝清さん。カピラさんが、「戦火の傷跡残る沖繩で、なぜラジオが必要だったのか」と聞く。「台湾から引き上げてきた兄は、戦後の沖繩には人々のために娯楽と情報と教育の面で一番ラジオがいい、と考えたからです。そこでラジオ局の開局を進言したわけですよ」と朝清さん。そこで開局したラジオ局が「AKAR 琉球の声放送」だった。ラジオ局開局で最初に流したのは、「かぎやで風」という沖繩の古典音楽で、沖繩のお祝いで必ず演奏する曲。今日のうれしさは何に例えよう、つぼんでいる花が露を受けて、パツと咲いたよっだ」という意味らしい。

この歌は、朝清さんとカピラさんのトーク

の合間に流された。当時の沖繩の人の想いが心に沁みてくるようだった。

AKARの開局に携わった朝清さんは、その後東京のNHKでアナウンサーの養成研修に参加。そして、アメリカ留学の機会が与えられ、ミシガン州立大学でラジオ・テレビ・ドラマを専攻する。「ミシガン州立大学で学んだ最も大きなことは何か」と問われ、「アメリカの通信法の放送に関して、「放送は一般の人々のための関心と利益、そして福祉のために行われるべきだ」という言葉に強烈な印象を持ちました。これこそ沖繩に必要なメディアだと確信を得ました」という朝清さんの言葉が印象的だった。

戦前戦後を生き抜き、生き残ったからこそ沖繩の人々に放送というかたちで尽くしたい。そう思った朝清さんがその放送局経営の術を学んだ地が、以前の敵国アメリカだった。そして、そのアメリカで妻と出会う。まさに朝清さんの人生は、沖繩と日本、アメリカの戦後史の一遍を象徴するものである。

60年近く放送に携わってきた朝清さんが思う、いまの放送の役割とは何か。

「原点に戻ること。メディアは一般の人々のための関心と利益、そして福祉のために行われるべきです。そのためにメディアは使われるべきだと思えます」

カビラさんはこの言葉を聞いて、「父から新たなバトンを渡されたような気がした」と番組を締めくくった。

このメッセージ「放送は一般の人々のために関心と利益、福祉のために行われるべき」は、放送人全員が受け止めなければならぬ心構えではないだろうか。

(日本大学芸術学部放送学科非常勤講師)

TOKYO FM 開局50周年に思う

延江浩

周年記念特番やイベント、ライブなどの準備の日々が続くが、それに先駆けて2月25日、ホテルオークラにて「TOKYO FM開局50周年 感謝の会」と銘打ち、これまでお世話になったクライアントや広告会社、制作会社、出演者の方々をお招きする。

演出側として半世紀にわたるアーカイブを紐解きながら、城達也さん、中島みゆきさん、ビートたけしさんなど時代時代にテールを彩った歴代のパーソナリティのヴォイス、更に松任谷由実さん、山下達郎さん、村上春樹さんなど絶大な人気のDJのみなさんのコメントをまとめているが、その作業の中、TOKYO FMのルーツとなる歴史に触れることができた。

ルーツとは、1970年の開局の10年前、第一次安保闘争真っただ中の1960年に産声を上げたのが東海太字超短波(FM)放送実局、FM東海である。

当時の仔細を知る局関係者はさすがに少なく、神奈川県平塚にある東海大学湘南キャンパスにある松前記念館に足を運んだ。

松前記念館とは、通信院総裁(現・総務大臣)だった松前重義さんの名前を冠している。戦後の一時期に日本を支配したGHQは放送体制を戦前の日本放送協会を改組するだけの一局体制を目論んでいたが、彼は戦前軍部による言論統制から民主主義を守るために情報の多元化を考えて民間放送の開局を閣議決定、教育と文化の普及のために実験放送を始めた。東海大学の創始者ということもあり、彼の足跡がわかる記念館がキャンパスにあるというわけだ。

松前重義さんに一周波数は無限の富という言葉がある。思想家・キリスト者だった内村鑑三の影響を受けた彼はラジオの周波数を教育に使う。

当時は大学全入時代ではなかった。働く若者に学びの機会をということで、夕方6時半から9時までのゴールデンタイムに通信教育講座を置き、それはFM東京にも長年引き継がれた。

館内にある何枚ものモノクロ写真に見入った。FMラジオに耳を傾けながら勉強に励む高校生たち、校舎内の工場で学生たちが作ったFM受信機、学生、教員、FM東海のスタッフによる放送区界調査風景、送信機室やスタジオ、ニューメディアと言われたFM放送のサテライト公開放送の様相……。

映画「ALWAYS 三日月の夕日」さながらの昭和30年代の光景は、「もはや戦後ではない」と経済白書の宣言と呼応するように、平和と未来を施行した民間放送の歴史そのものだった。

来る開局50周年感謝の会では、まずはこうした先達の皆さんへの敬意と尊敬が欠かせないと深く思った。(TFMエクゼクティブプランナ)

笑点

第17回 人気番組メモリー

日時・3月10日(火) 13時半〜16時
場所・情文ホール(横浜情報文化センター)
ゲスト・林家木久扇(山田) 福田一寛
飯田達哉(ユニオン映画)
司会・久野静香(日テレ・アナ)

放送開始55周年を迎える日本最長バラエティ、ご存知の「笑点」で参加ご希望の方は事務局へご連絡ください。

感染症対応で、中止しました!

第21回 放送人の世界

のぶひろ

土井裕泰 ～人と作品～

日時 12月8日(日) 13時〜17時
場所 上智大学 中央図書館(L号館)

9階会議室
講師 土井裕泰
聞き手 今野 勉 榎崎友里(上智大4年)

日曜日の開催、当日上智大のキャンパスでは話題の英語の入学試験が行われている、と主催の上智大音好宏教授から挨拶の中で説明があったが、客席はほぼ満員の盛況だった。音教授、今野勉放送人の会会長の挨拶に続いて、土井裕泰氏の挨拶。



「今野さんからお招きをいただき、このセミナーのラインアップをみました。ドラマ、報道、ドキュメンタリーの錚々たる方々です。そして21回と、長くやっておられます。ドラマをやっている世界は、どんどん次々とやっていく世界で、昔の自分の作品を見るという機会はそうそうありません。この機会に古い作品を見返すと、ドラマの作り方は何がかわって何がかわっていないかが分かって、それが自分の今の仕事にもフィードバックされると思います。それが皆さんの何かのお役にたてばと思います。」

【部分上映】

—これらは土井氏が影響を受けた作品で上映されたあと土井氏の短いコメントがあった—

「青い鳥」

脚本・野沢尚 出演・豊川悦司

「ビューティフルライフ」

脚本・北川悦吏子 出演・木村拓哉

土井 〆見て、木村拓哉は凄いなあと感じますね。彼女が部屋に入ってくるのにドアを開けたまましておかなくてとは、自分のスニーカーをドアの間につつこんでストッパーにする。あれは多分日本にはありません。木村くんはスタジオに行つて、自分の動きが自然にできるように事前にセツトして、それを芝居に使つて行く。そのことでそこらにいるひとと同じひとという感覚が生まれてくる。バリアフリーなんて言葉でなく、障碍者も自分たちと同じように生きているという目線で語られている。

北川さんのホンのこの二人の会話はなかなかない、生きた会話です。

キスシーンは、綺麗な夜景を背景にワインを飲みながら、というドラマもありますが、こんな、何気ない日常の瞬間、トイレの前などで起きることを描けるのが、連続ドラマの良さだと思います。

野沢さんの「青い鳥」もそうで、1話の冒頭で延々彼の生活が描かれる。朝起きて、駅に行つて、働いて、夜、帰つて、飯を食、べる。これをずっとやっていた。夏川結衣さんと不倫関係になって、第4話で子ども鈴木杏ちゃんを連れて3人で駆け落ちして、北海道へ逃げて、そして彼女が自殺して、豊川さんは投獄され、出獄すると鈴木杏ちゃんが成長して、再会して最後は南の鹿児島先まで逃げる。日本を縦断したロードムービーみたいになった。起きていることは凄いのだけど、普通の生活

の権がどこかはずれただけで、「そつなることつてあるんじゃない」という感じ。制作期間を5ヶ月くらいかけて、とても贅沢なことをやらせてもらっていた時代です。

「マンハッタンラブストーリー」

脚本・宮藤官九郎 出演・小泉今日子

土井 これは宮藤文学だと思います。「青い鳥」は野沢文学であり、「ビューティフル」は北川文学です。みな人間の話だということは変わらないので、それをどう楽しめるかは毎回僕にとつてのチャレンジだと思います。

これは実に楽しく作つたのですが、視聴率は7、8%と悪かった。テレビ局のそほにある喫茶店で業界の俗物的な男とかいろんな人物が出てくる。船越英一郎が主演しているドラマを書いている森下愛子さん演じる女性の脚本家が出てきます。テレビに行くところに近いところに今週視聴率が良かった番組が張り出される。そこに14%という数字を見つけた脚本家が「14%なんて誰も見ていないに等しいじゃないの」と言う。それは当時ヒリヒリするような台詞でしたが、今はもつときびしい時代になりました。宮藤さんはテレビ業界のこまかいところを書きます。このドラマはラブ・コメでひとりずつ誰かが誰かを好きになるのが連鎖してゆく。塚本高史くんという喫茶店のアルバイトの子が実は女の子だったというのがある。ラブコメですが、それだけではない時代に対する批評性がある。その意味では宮藤さんは素晴らしい。

【上映】

「コウノドリ」第5話

脚本・山本むつみ 出演・綾野剛

土井 これは2015年の10月から放送したドラマです。マンガ原作があり、「コミック

モーニング」にいまも連載されています。

私の略歴をみると2004年を境にそれまではオリジナルがほとんどだったのに、マンガや小説の原作のものに変わっています。それは意図してというより、時代の環境がそうせざるを得なかった。作り手の側がそうなっていた。原作があれば楽ということはない。原作をどうテレビドラマに落とし込んでゆか、特にマンガがすでにビジュアルなものが提示されているので、それを毎回ドラマに落とし込んでゆくのは凄いなと思います。

第5話で、妊娠した中学生を演じた山口真理さんは15歳でいい演技でした。原作は高校生のカップルです。これまで中学生の妊娠はテレビドラマのスタンダードなテーマとして描かれ、「3年B組金八先生」、その後「14歳の母」があります。こうした部隊のドラマでは未成年の妊娠をどう扱うかと考えますが、原作に高校生の話があったので作りました。原作は両方の家族が力を合わせてみんなで育てていこうよという結論なのですが、番組を作るうえで医療従事者やソーシャルワーカーなどの方の協力をお願いしているのですが、「ちょっと時代に合わない」と言われる。幼児の虐待、赤ちゃんの虐待や産み捨てのニュースが毎週のようにある。家族みんなで力を合わせてと美しい言葉でのメッセージをあらためて発するのでなく、現状に即したものにしたい、と特別養子縁組の話にした。赤ちゃんにとつて何が大事かを考えた。作るときは原作通りがいいと賛否両論があり、これはチャレンジです。やつて良かったと思います。最近中学の保健体育の授業にこれが使われているそうです。

長くドラマをやっていると普遍的なテーマをいかにアップデートするか、時代に合わせるかを試みます。家族の問題などを根っこ

ころは変わらない。それをいかにアップデートするかが求められています。それが強く印象に残る取り組みになった番組です。

榎崎 上智大の4年生です。「14歳の母」「3年B組」の未成年の母は知っています。これまでの未成年の母は妊娠したときあせつちやつて、やつちやいけないことをやつたと抱え込む。今回の未成年の母はあつちからかんとして、現代っ子を描いた感じがしました。「コウノドリ」は毎回ほろ泣きました。土井先生の作品は映画もふくめて感動する作品が多いと思います。一方で「マンハッタン」のようなコミカルなものもある。コミカルなものロマンティックなもの意識して、差があるものですか？

土井 番組の企画は僕一人がどう描きたいかということではなくて、いまこれはどんな人へ、どんなメッセージを伝えるかということに毎回取り組むという気持ちでやっています。いろんなジャンルがあります。サスペンス、ホラー、コメディ、シリアス：それらはみんな人間のドラマで、こつちからみるとコメディ、こつちから見るとシリアスです。人間は不可解で多面的なもので、それをどちらの面から描くかの違いだと思います。ジャンルがこうだからでなく、いま、どうすると、その都度考えています。

榎崎 初歩的な質問ですが、ディレクターとプロデューサー、兼任なさっていることもありますが、その違いを教えてください。

土井 基本的には僕はディレクターだと思っています。プロデューサーをやるのはイレギュラーなことです。プロデューサーとして入るのは企画の段階から入って、最初のキャストティングや打ち合わせから参加した場合です。いまドラマの企画は、映画もそうだと思いますが、2年くらいかけます。いま、もう202

1年の企画ですね。俳優のスケジュールがあり、脚本家も人気のある方はほとんど予定が入っていますので、1年半か2年先の話をしている。ディレクターは現場の作業です。会社では「こんな企画が進んでいるのだけ」と言われることが多い。「カルテット」は坂元裕二さんと組んで仕事がしたいと思ったので、最初から携わりました。プロデューサーとディレクターは目指しているものは同じですが、基本的に違いますね。

今野 僕はディレクターしかやっていないけど、役割としては、ディレクターは金を使いたい放題、プロデューサーは押さえつけない、そこが一番違うところですよ。

土井 僕は全くプロデューサーには向いていない。ディレクターは例えばお箸を左で持ったかとか、飲んだか飲まなかったかとか、そんな細かいことを大事にするのが仕事です。

今野 最初オリジナルの脚本で、原作なしですね。ある時から、略歴をみると今世紀から原作ものになる。どこのテレビ局でも入って行くと、ディレクターやプロデューサーがみんなマンガ本を読んでいるという話があった。視聴率を担保するために面白い原作をおさえ、安全を確保してからドラマを作る。冒険心が失われるとの批判もあった。

この作品は原作は面白いけど、ドラマ化するのが物凄く難しい。リアリティーが難しい。産婦人科で赤ちゃんが出てくる。生まれたばかりの赤ちゃんを画面に出すのは難しい。昔その日生まれた赤ちゃんに有名人が名前をつけるという番組をやった。ナム番組なのに、赤ちゃんはその日生まれるかどうかわからない。産院では「なにをバカなことを考えているの」と言われた。この番組では生まれたての赤ちゃんが沢山出てくる。少し大きくなって乳児院から養護施設に移されるとき、あの子は本

当に泣いている。「先生と別れるのがいやだ」と言ってる。あんな子どもたちのリアリティーがないと成立しないドラマです。よく踏み切ったと思うけど、そこらの勝算はどうだったんですか？

土井 コウノドリを実写化するときに、「いいけど、赤ちゃんどうするの？」の話から始まった。赤ちゃんは毎回出てきますが、それとNICU（新生児治療室）が出てくる。大森南朋がこの担当を演じています。病気を持って生まれた子ども、軽体重で生まれた子ども、この話もある。「これどうするの？これやらないのなら、やらない方がいい。ここで嘘ついたら終わりの企画だ」と言いました。プロデューサーが僕と同期の鈴木さんという女性で、出産経験もあり子どもを生みながら働くことを普段考えているひとで、彼女とそのリアリティーを大事にすることを確認して始めました。

知らない人に声をかけてもダメなので、TB Sに「ママの会」という子どもを持って働いている人たちの会があり、そこに声をかけて知り合いの人で、撮影期間中に生まれる予定の人を探してもらいました。すると結構いらつしやる。ネットで募集することをしないで、知り合いから知り合いへ人づつで全部女性が仕切りました。台本ができてきて、今回生まれてくる赤ちゃんが何人必要だとわかると、そこに電話して「生まれたら連絡いただきたい」と頼みました。生まれてすぐはやはり無理で、退院してから生後1週間から2週間の赤ちゃんとお母さんにスタジオに来ていただいて撮影しました。来るとなるとおじいちゃん、おばあちゃんなどスタジオへ来て凄いいことになりました。怖いのは感染症ですが、スタジオをきれいなところじゃありません。スタッフ全員マスクを着用、10メートルおきにアルコールの消毒液を置き、現場には必ず助産師か医師

に来てもらい、僕らは絶対赤ちゃんに直接触れない、助産師さんか医師から役者に渡してもらおう。それを徹底しました。1話で反響が大きくて、「うちも出たい」という人がふえ、後半はほとんど赤ちゃんに困りませんでした。2017年にセカンドシーズンをやりましたが、そのときも困りませんでした。しかし気が緩むといろんなことが起こるので、十分注意しました。赤ちゃんのシーンには緊張しました。赤ちゃんにはベビーオイルと血糊ではなくて食紅みたいなものを塗ることも助産師さんにやってもらいました。軽体重の赤ちゃんについては、神奈川子ども医療センターに協力していただきました。僕らはセットは作りましたが、そこに出る赤ちゃんは非常にデリケートな状態の赤ちゃんです。必要だとなったら早めに医師に紹介していただいてご両親の承諾を得て撮らせていただきました。最終回にはダウン症で生まれてきた赤ちゃんを撮りましたが、これはスタッフが真摯に仕事をしてくれた結果だと思っています。

今野 少しプロっぽい質問になりますが、最初にみたオリジナル作品のドラマの展開の仕方は、テレビのために書かれたK他訳本の良さがあり、台詞などで状況がわかる。3本の話は違うがそれぞれ似ている。「コウノドリ」は始まる時「お話が始まった」という感じがどうしてもする。テーマが決まっています、うまくやれば泣ける。しかし、いま話された現実の強さ、本当に起こっているというリアリティーがドラマを支えている。それにドラマが応えている。その分オリジナル作品は、「青い鳥」の最初もそうですが、物語は始まらないで日常のやりとりが延々と続く。しかしドラマとして新しい世界を見せられた。そこらにディレクターとしての腕の振るいどころがあると思えますが、どうですか？

土井 「青い鳥」はディレクターになって3年目くらいに作ったのですが、見返してみると随分大人っぽいものをやっていたなと思います。今より、見る人の感性を信じていた。勿論テレビドラマは分かりやすいのがいい。そんなに高尚とは思わないのですが、分かり易さが過剰なのではないかとも思う。野沢さんの卜書きは難しく、何回も辞書をひいた。アニメ原作は二次元で描かれたものを私たちが立体で表現するのは役者をふくめて戦いで。物語性でなく作家性との拮抗です。「青い鳥」では台本に書いてないものをいっぱい撮りました。例えば、あの中で夏川さんが赤いスポーツカーに乗っている。途中、スピードを上げるのにサンダルを脱いで裸足でアクセルを踏む、あれは僕の演出です。田舎の町のお金持ちに見染められてきたけど、窮屈だという、もともと持っている奔放さを出したかった。あんなことを沢山やっていました。いまはあんまり説明しないで話をどんどん進めて行くテンポ感になっている。昔は1時間のドラマを撮り終ると10分長い。結局足したものを全部切った。最近撮っていてあんまり延びない。僕自身があつさりしてきたのかな？さっきあげた脚本家の方たちはみんな人間の多面性が描ける。そこに書かれたものを撮るということはある種の戦いです。脚本家との打ち合わせはたんに「ここをこうしたい、ではなく、全人格をあらわにするような、ヒリヒリする時間です。そんな戦いをしていったような気がします。

「カルテット」第1話
脚本・坂元裕一 出演・松たか子
テレビドラマの現在と朝鮮みについて

梶崎 この異様な会話の雰囲気、言葉について、こんなことにこだわったというエピソード

ードがあつたらお聞かせください。

土井 あらためて見て、面白かった。(笑い)
さつき原作物にある物語を追いかける、物語を期待するという話をしていましたが、それとは真逆の物語が全く分からないドラマです。1話ではふつう登場人物を説明しなくてはいけなくて、何をやっていて、この人を好きになれるかなどを考えなくちゃいけないのですが、全くわからない。分からない人たちが軽井沢に集まって、ちよつと仕事をしていたり、東京から通っていたりが分かって、演奏を始めて、だんだん、巻さんは旦那を殺したんじゃないかという話が出てくる。しかし5話までになると旦那が出てきてそんなサスペンスじゃなかったんだとわかり、むしろ夫婦というヒリヒリするサスペンス、心のサスペンスになる。最初「これどういう企画ですか?」というんな人に聞かれました。説明するのが大変でした。坂元さんは日テレやフジで毎年書いておられたのですが、TBSではなかった。「マザー」など素晴らしいものを書いておられたので、坂元さんとうしてもやりたいのだ、松たか子、満島ひかり、高橋一生、松田龍平、この4人でやりたいんだ、と言って、俳優さんたちも意外に早く決まりました。「内容はわからないけどやります」と。2年先までスケジュールがあつて3年先の企画で決まった。企画書を書くのは大変で、会社用に嘘の企画書をついて作りしました。4人の夫婦の物語とか、2組の男女の恋愛が交錯するとか、大人のラブサスペンスとか。最初は「カルテット」という企画もなかった。坂元裕一の脚本で大人の4人の男女の物語というので進んだ。「最高の離婚」というフジテレビのドラマがありましたが、そんなものも考えていました。固まるのにじっくり時間をかけて、結構ざりざりになって弦楽四重奏をやりたいということに

なつた。「へえ!」です。音楽は大変なんです。俳優さんが演じるのに弦楽器は嘘がバレちゃう。ピアノは手元がわからなくてなんとかなるけど、弦楽器は右手も左手も全部見える。それに4人だと誰か一人ができればいいというものじゃない。4人全員できないといけないというのは相当ハードルが高くて、ちよつと躊躇したのですが、前の年の夏には楽器の練習を始めて貰いました。しかも冬の軽井沢、閉ざされた、少し空気が冷たい、そんな場所という。そんなところで坂元さんは何を出してくるのだろうかとの期待感が大きかった。

それで何とか企画は通りました。企画の初期の段階でいろんな人がいろんなことをわあわあ言う時期を粘って持ちこたえて、ここまで来たらやるしかないよねという段階で初めて答えを出して強行突破する形でした。本当に何が何処へ行くのか分からないままでした。

梅崎 見ている側は同じように感じていた。

土井 巻さんは巻真紀さんで、元は早乙女真紀さん、巻という人と結婚したから巻真紀さんになっている。そんな人だと思つていると、8話の最後で早乙女真紀さんはこの人ではありません。この人は誰なんだろう、となる。松たか子さんは8話の台本を貰うまで、そのことを知らずに演じています。ところがその段階で1話から見直してみても違和感がないのです。凄い俳優さんだとあらためて思いました。

今野 始まったときにラストがどうなるか坂元さんも決めていたんじゃないことですが、ある程度の構想はあつたのでは?

土井 いや、全然ありません。作家によっては全部ホンを書いてちよつと、「これでですか」と出してくださる方もあります。坂元さんは早くホンを書きあげるチャンスはあつたのですが、俳優がどんな声でどんな芝居をするか見えな

いと書けない、と3話まではできていました。それが以降は俳優がどうやるかを見て、どんなインスピレーションが湧いてくるようになった。物語で枠組みをがちり決めて、というのは逆です。中にあるものから自然発生的に物語が生まれてくる。こちらは大変です。向かつている方向が決まっていると準備もできなくて。台本が先までできていると何話も同じセットで効率良く撮れる。若い人は効率的な作り方しか学ばないと思いますが、これは面白い。

今野 これはほとんどロケですか?セットはありましたか?

土井 別荘の中は全部セットです。ライブハウスもセットです。ロケはかなりの分量があつて、冬の軽井沢は本当に寒かつた。

今野 第1話で唐揚げとレモンの議論しながら夫との関係を聞き出してしまふなど、何も決まらずに書いているうちにちゃんと細かいところまで計算されていると思わせるのが凄いです。

土井 脚本家にはいろいろあつて、プロットから始める人がいる。全体としてこんな話でそれを割り振つてこの回では頭からこうやる、とか。坂元さんはまず一人一人人間が生まれながらここまでする。入るときはプロットはペラ2枚くらいしかなかったのですが、一人一人のキャラクターについては、一人10枚ずつ以上ある。その人たちが交わつてどうなるかです。坂元さんの中にはこういう話をやりたいというのがあると思う。いま、どうしても物語が求められるのですが、そこは坂元さんがやりたいところではない。早めに書く物語にされてしまうので、そうさせない作戦だったのかも知れません。

今野 いい脚本は大事な、プロットの重要なところを担うようなシーンで、現場にいる人

の行動や言葉はこちらから日常を盗み見しているような、人生を背負っているその場だけの言葉で、説明のための台詞はない。それでいて構成はきちんとしている。一人一人の人生を10枚ずつ書いて、その組み合わせで人生が始まる。坂元さんに頼むとき、そうなるかとわかつていましたか?

土井 普通の、僕たちがいつも求められているのとは違う入口のものを出してくださるとの期待は凄くありました。1話を撮り始めるまえに坂元さんに「これからよろしくお願いします」と挨拶すると、坂元さんは「最後の確認ですが、これは僕が書きたいものを書いていいドラマです」と言われ、「そうです。そうだから、坂元さんに頼みました」と答えました。坂元さんはいろんなものを書いていて、ニーズに合ったものも書ける。そうでなくていいのですねと確認された。

唐揚げとレモンの話の他に壁に画鋲を刺せるかどうか、そこに人生の何かを比喻として使えるというのは凄くことで、単なる言葉の遊びではない登場人物の人生だったりする。イッセー尾形は彼の内面に入つては描かれな。彼の部屋に行つてみたもの、そして自分たちの動きの中で画鋲を壁に刺すかどうか語られる。壁に穴があくと元に戻れない、不可逆なのだ、後半にも一貫したテーマとして人生は不可逆だと出てきます。ホンを貰つた時初めてわかることがいっぱいあつて、そして俳優が演じたときに分かること、つなげて1本のドラマにしたときにわかること、とわかることが何層にもなっている。面白い。

今野 お世辞で言うのじゃないのですが、どこにどう転がって行くかわからない、このシーンが本当はどんなことなのかわからない状態で演出の方向性、トーン、テンポなど実に素直で見えていて気持ちがいい。それは撮つてい

てどうやるか考えたのですか？

土井 考えてみて「俺の世界って何なのか。あまりないなあ」とむしろ僕は触媒みたいな存在で、脚本家、俳優、プロデューサーなどいろんな才能があつて、その間に入つてそれがばあつと化学反応を起こす。そのためにいる存在で、自分の作家性を問われてもよくわからない。今野さんは「観察している」とおっしゃったのですが、自分でも観察者かなと思ひます。楽しいシーンを音楽もカメラ割りも含めて演出者として楽しく作ることはできます。しかしこのドラマについてはそれをしない。

こちらのカメラからただ見つけていけばいいのではないか、いま彼が面白いことを言ったというのを映像で説明しなくてもいい、見る人の自由で、それがとても豊かなことだと思ひます。これだけの俳優さんが集まつてくれたのですから、こつちから見ていければいいという感覚です。「青い鳥」のとき僕はディレクターとして駆け出しでしたが、同じような感覚です。あれから20年、テレビドラマは20%とるのが当たり前だったのが10%とればOKになり、みんなスマホで見たらタイムシフトで見えます。ドラマの状況は僕の周りで大きく変わっています。演出も変わ、僕自身も変遷しています。どういう表現が求められているかには向き合わざるを得ませんが「青い鳥」から始まつて「カルテット」に返つてきたということは、僕はそんな人間だということでしょう。

今野 最後に映画のことを聞きます。最近映画とテレビドラマを行ったり来たりしていますが、使っている機材は映画もテレビも同じです。演出上の区別もなくなっている。何か違いを感じながらやっているのでしょうか？
土井 よく聞かれる質問で、ちゃんと答えられたことのない質問です。映画といつても所

謂商業映画とそうでないものがありますが、僕がやらせてもらえるのは商業映画です。あの程度の課題を果たさなければいけない。テレビドラマである程度の数字をとらなくては

いけないのと同じような使命感を持つてやっています。映画は暗闇で画面だけを見つめているものです。見ている人の想像力はそこにどれだけ刺激があるかということが大事です。テレビドラマでは、「ミシンかけたアイロンかけたらしながら見ているのだから、台詞は全部喋つてちょうだい」と言う。それはある程度真実でしょう。映画はどちらかと言えば非日常、テレビドラマは日常で、見ている人の脳がどれだけ喜ぶかと考える。だから全部を描かない。むしろ敢えてあいだを省略するとか考えます。映画では意外に分かり易さが求められる。分かりにくいことを嫌う。ドラマもやっていると不自由を感じるけど、映画はもっと不自由だと感じる瞬間があります。

梅崎 画面の大きい小さいについてはないんですか？

土井 勿論それはあります。15年ほど前映画を撮つたときは映画の寄りはこのサイズだ、画面が大きいからこれ以上寄ると言われたけど、いまはそんなことはない。ハリウッドの映画は凄いクローズアップばかりだ。最初に映画を見たときスクリーンの奥に写っているものはぼけていても全部わかるのだと思つた。するとこちろで写っている、見えてないと言わなくちゃいけないかという、見ている人は凄く画面を読み解いているので、それを信じなくちゃいけないと思つています。

会場からの質問 一つのドラマで複数の演出がある場合があります。例えば「ウルトラマン」で実相寺監督が撮るとその回だけ違う。それはそれで面白いのですが、連ドラの場合複数の

の演出家が撮つて違う演出をするのが混乱すると思うのですが、何故ひとりで撮らないのか。複数で撮る場合こういう演出でという打ち合わせをしているのでしょうか？

二つ目の質問で、最近の作品で特にマンガ原作のものは完結しないうちにドラマ化されていて、あまり適当な台詞やキャラクター設定は難しいと思いますが、原作者とどの辺まで打ち合わせしているのでしょうか？

土井 一人で撮らないのはスキームの問題です。いま、制作が始まるのはふつう放送1か月前からで、3カ月ワンクール、1年4クールという単位で動いている。脚本も最初から全部できてはいない。その中で動いて撮影と仕上げと準備が平行している。一人が仕上げをやっていると一人は撮っていないなら物理次を準備しないと間に合わない。そんな物理的な事情で一人だけでは撮れません。それから、会社では次の世代をそだてておくにはいけない。最初ADをやっていた人が途中からディレクターとして登板するという形で育てています。会社だからそれは必要です。やる人が違えば同じものにはなりません。原則として第1話はチーフディレクターがやって、その話の大本、どんなひと、セット、家、服など大前提といったものが決まる。以下のディレクターはその大前提を崩さずにやります。しかし、同じ台本の中の喫茶店でも1回ごとにどんな喫茶店にするか自由です。青山のしゃれた店、下町の古い純喫茶とか、同じにはなりません。「ビュティフルライフ」で僕はセカンドで1本のうち5本くらい撮つたのですが、絶対チーフより面白いもの撮つてやろうと頑張つた。技術と経験は劣っているのだけど、

「お前になつてからつまらなくなつた。ダメになつた」と言われたくなかつた。あわよくばチーフより面白いと言われたい野心が生まれ

てくるので、悪いことではありません。「ウルトラQ」のシリーズは監督が変わると違う作品になる面白さがあり、それはそれでテレビの楽しみ方の一つだと思ひます。いまの「いだてん」がそうです。ディレクターによつて全然ちがう。面白い、みんな切磋琢磨している。

原作者と僕らのあいだには必ず編集者が入ります。原作者と直接やりとりすることはあまりありません。それも原作者によります。ほとんど関わらないひとにいるし、説教的に関わるひとにもいます。マンガ原作はマンガのファンがいて、しかもビジュアルで見ているのでそれぞれ自分なりのキャストイングをしている。自分の好きな場面や思い入れが凄くある。僕らがドラマを作つてもそれを全部は描けないので、「あのシーンがない」とか「キャストイングがそもそもこの人じゃない」とか、そんな戦いがある。それは最初多いのですが、放送が始まつてしばらくすると、パタとなくなる。「コウノドリ」もそうで、綾野剛と吉田羊は原作のビジュアルに完全に寄せた。この前やつた「風のお暇」の中村倫也くんがやつたゴンちゃんもマンガと全く違うビジュアルです。高橋一生くんがやつた役も原作と年齢など違う。制作発表の時マンガファンから強いアンチの声があつたのですが、放送が始まつた途端パタとなくなつた。それは役者が凄くてそういうアンチを多居でねじ伏せた。見る前に「こちやこちや言うな、です。逆もありますよ。いつまでも炎上し続けるのがあります。そこをねじ伏せたときが一番気持ちいい。

梅崎 なんて原作と変えるんですか？
土井 生身の人間がやっているのだから、どこまでやれるかはその都度、その都度です。

放送人の会・鈴木嘉一 「カルテット」はリアルタイムで全部見ましたが、キャストイングが変わっている。軸になる4人が誰一人まっ

とうじやない。(笑い)一癖ある。一筋縄じゃ
いかない。主役、わき役を問わずです。吉岡里
帆さんの役はさわやかそうにみえて裏のある
とんでもないひとだし、誉め言葉として言う
のですが「曲者揃い」。脚本、演出を越えて何
かしてかすのではないかと思わせるひとが揃
っている。特に第1話はイッセー尾形。高橋一
生も曲者だけど、何倍もキャリアのあるとん
でもない曲者だ。もたいまさ(こもそう)だ。よく
も悪くも、老いも若きも、あれだけ曲者を集め、
視聴率を取りにゆくキャスティングとは思え
ない。(笑い)びつくりするような数字にはな
らなかつたけど、間違いない堅い層を掴んで
いると思います。脚本家、プロデューサーを含
て、あのキャスティングはどう決まったのか、
編成から「もう少し数字の取れるよう考えて
もらえないか」などと言われなかつたのか、ぶ
つちやけたところはどうですか？

土井 ぶつちやけたところ、数字を本当は取り
たかつた。途中WBC、世界野球大会の中継が
凄くおした回が2回あつて、裏番組の数字が
よくなつた。わかる人がわかればいい、なんて
気持ちはありません。できるだけ多くの人に
見て欲しいと思います。しかし数字を取るた
めに事務所を入れてもなにかが変わるとは思
わない。大事なものは僕たちがこれで何をやろ
うと思つたか、です。

この4人は2年前、企画の段階で「出ます」と
言つてくださった。それは、坂元さんが書くの
なら、とか僕と一緒に仕事をしたい人もいて
OKをもらつたので、それを裏切りたくはな
かつた。

編成は第1話を撮つてるとき見に来て「画
面が暗い」などと言つたのをしりぞけましたが、
何か変なものを撮つている。マニヤックなも
のにしてしまふのではないかという危機感
があつたようです。1話を放送してからそれは

逃げ切つて、数字の他にいろんな論評も出ま
したので：

今野 賞もいくつ取つた。賞をあれだけ取
れば大丈夫でしょう。

土井 それは後のことで、やつている最中は
数字があつた方がやりやすい。

鈴木嘉一 松たか子さんの夫役で宮藤官九郎
が出てきたのにびつくりしました。高橋源一
郎が出てきたのは遊びですか？

土井 高橋源一郎さんは遊びです。宮藤さん
については、ラストで旦那が現れて、6話でこ
の夫婦の話をするとおおまかに決めていて、
旦那のキャスティングを早く決めなくてはい
けなかつた。坂元さんに相談すると「宮藤さん
でお願いします」と聞いた途端素晴らしいキ
ャスティングだと思つてすぐお願いに行きま
した。

今野 企画書もないうちから4人のキャス
ティング、それぞれそんなに視聴率を取る人じ
やないかもしれないが一流の俳優です。それ
がOKするということは、土井さんがディレ
クターをやることへの信頼がある。俳優は意
外に、ホンが出来て、どんな役かわからないと
OKしないのがふつうです。企画書もないの
に「出ます」というのは相当の信頼関係です。
それがあれば、筋道が多少どこかへ行つても
俳優はおさえてあるから大丈夫と進めていけ
る。

土井 僕は松さん以外「カルテット」が初めて
の仕事です。松さんとは「運命の人」で一緒
しました。皆さんは坂元さんが書くものにな
いして信頼が大きい。いま、「企画書がなく
て」と言われたのですが、企画書は一応作つた
んです。企画書上に話をひとつ考えましょ、
となつて、「ある夫婦がいて、結婚記念日のデ
イナーを外でして、楽しくお酒を飲んで、家に
帰つてきたところから記憶がなくなる。気が

つく山別の別荘みたいなところで両手は縛ら
れ、監禁されている。そこに見張りのためだけ
に雇われた男女がいる。この4人の山荘での
話」というのを考えた。面白そうでしょうか？途
中で逃がしたり、二人が恋愛関係におちたり
というのが書いてある。これでOKしてもら
つた。ということは、この人たちは、テレビド
ラマの企画書として普通にあるものではない
ものを何か求めていた。「本当にこれやるの？」
とは言われたけど、やらないにしても何か違
うものをやろうとして乗つてくれ
たと思います。

梅崎 「カルテット」の放送中、SNS上で「こ
れからどうなる」との推理合戦が話題になつ
ていました。いまテレビドラマにはSNS上
での視聴者の盛り上がりも重要だと思います
が、制作するときはSNSは気にするのです
か？

土井 それに全く関係なくものを作っている
人は誰一人いないと思います。SNSは凄
いとおもいますし、気にせざるを得ない。放送し
ながらツイッターを見ています。「カルテット」
のツイッターを見てみると、視聴率25%くら
い取つている気がする。(笑い)「重版出来」は
視聴率8%くらいのドラマでしたが、ツイッ
ターだけをみると20%くらいだと思つた。S
NSは上手に使えばいい。昔は視聴者からの
お葉書とか手紙とか、物凄くタイムラグがあ
りましたが、いまは同時なのでわかりやすい。
しかしSNSのために作りたくはない。バズ
るために何かを考えるのはいやですね。勿論
「ちょっとこうやればバズる」とわかつてい
れば、やらないほど頑なではありません。

第17回人気番組メモリー
『笑点』3月10日は中止しました。

第78回放送人句会

令和元年12月3日(火) 於 赤坂・麦屋

出席 星野高士 伊藤祝郎 林備後

佐々木光野 中村フミ 深尾一化 近藤久二
以上7名

◇兼題 おでん 狼 顔見世 ケツカッチン
(業界用語)

- 「星野高士特選」
狼の駆け抜けて静寂と闇 一化
おでん新橋豚足中野ケツカッチン 備後
呆然と除夜の鐘聞くケツカッチン 一化
顔見世や夜雨の匂ふ楽屋口 光野
過疎村の奥に狼生きている 視郎
涙目のわけはおでんと酒に消え 一化
顔見世や木戸の前から華やいで 一化
赫き手がおでんに辛子添へてくれ 久二
- 「星野高士選」
顔見世を祝ぎて浮き立つ祇園町 備後
もう一杯ケツカッチンのおでん酒 フミ
顔見世の目当て一力茶屋の段 視郎
年の瀬に二つ抱へてケツカッチン 一化
また明日も作り過ぎたる関東炊き 光野
顔見世や蕎麦屋に声のよき男 フミ
顔見世のまねき舞妓の項かな 光野
目路の果て幻狼横切る湯ヶ野道 久二
振り向けば狼のいる午前二時 フミ
大晦日CM搬入ケツカッチン 視郎
顔見世の役者絵真似る自撮りかな 一化
顔見世の京友禅の母娘かな 視郎
サヴァンナへ狼を見に一昼夜 備後
暗闇のおほかみ多摩動物園 光野
冬の星ケツカッチンは突然に フミ
宵の句座老舗女将のおでんかな 光野
おでん屋の屋台娼婦は飲みつづれ 視郎

少年とおほかみの夜飛騨太古
滑り台こそと狼乗っており
光野 康夫

「會員互選」
あの頃は同棲してたのおでん食へ
康夫

ケツカツチンあの世の人とかくれんぼ
康夫

狼の衣ころも脱いたら片つけろ
康夫

待ちわびておでん屋の隅杯重ね
久二

子供だった一瞬の車窓に狼
康夫

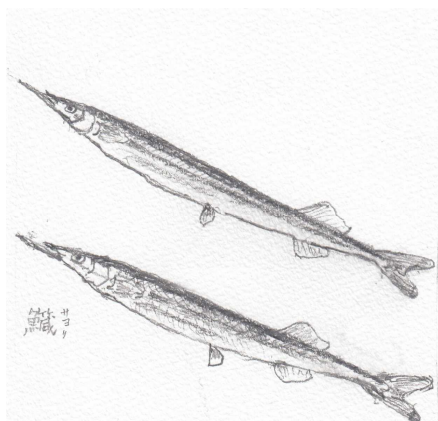
加茂の風顔見世横目に急ぐ女ひと
久二

顔見世に通ふ芸妓の心ばへ
備後

狼になりたき夜や子守唄
フミ

旅立ちの木の実ころころケツカツチン
康夫

「選者吟」 星野 高士
落ち葉踏みケツカツチンの銀座の夜
おでん屋に人を待たせて帰りけり
顔見世や勘亭流の文字に雨
顔見世の尻かつちんの台詞かな
顔見世の知らぬ役者の女形



第79回放送人句会

令和2年2月4日(火) ◇於 赤坂・麦屋

出席 伊藤視郎、林備後、鶴橋康夫、

佐々木光野、中村フミ、深尾一化、近藤久二
以上7名

兼題 立春、鱧、踏絵、ガヤ(業界用語)

立春の麻雀聴牌即立直デンバイリーチ
視郎

まどろんで落ちて逝きたし立つ春に
康夫

江戸前の眼もと涼しき鱧かな
備後

捌かれてなほ可愛げに鱧かな
備後

春寒やガヤ百人のロケ終る
フミ

踏み絵されされるに押れし我れ傘寿
康夫

夏の陣死骸のガヤが食ふ豚汁
久二

観音に似たるマリアや踏絵板
光野

立春を過ぎて降る雨土甘し
久二

わが踏み絵立案企画に入れる嘘
康夫

立春の地球眺むる宇宙船
光野

華著にして鱧恐るべき口唇
光野

絵踏待つ 漢がひとり粗筵むしろ
備後

立春や狡い女の細き指
康夫

立春や猫も一緒に欠伸する
フミ

ガヤ足して芝居の締る春ドラマ
備後

すぐパンツ脱きたがる女立春にひと
康夫

銀幕の話は尽きずサヨリ食ふ
一化

次回放送人句会

○令和2年4月6日(月) 17時半頃から 投

句締切18時半

○会場 赤坂・麦屋 星野先生が出席され
ます

○兼題 木瓜の花 栄螺 都踊 パン
(業界用語)

79回句会実況報告

放送人句会の開会は5時半頃。その頃から
三々五々麦屋に集まって、6時半の投句締切
まで、ビールやお酒を飲みながら、お喋りしな
がら、句を作り、投句する。投句は一人7句。

それぞれ短冊に1句ずつ書き7枚の短冊を出
す。その間今回の兼題についてお喋りが始ま
る。

立春は今年、句会の2月4日。前日が節分で、
TBSで赤坂の町内会担当者から、赤坂不動
尊で豆撒きが行われ、その手伝いをしたこと。

立春の今日は昨晩撒かれた豆をついばみに鳩
が集まっているだろう、と信用できない話が
出た。立春の卵は終戦直後、つるつるのテーブ
ルの上で卵が立ったと新聞で報じられて有名
になった。雪の結晶で有名な中谷宇吉郎が自
分でもやってみて見事立ち、その時代誰もが
一度は試みたものだ。立春といえは卵、とい
うのがこの世代の感覚だ。

鱧は寿司屋や割烹料理で高級魚として使わ
れ、築地の相場(今は豊洲の相場)で1キロ
4千円くらい。麦屋では兼題の食材で料理を
作ってくれる慣例だが、サヨリはさすがに使
えず、この日使われた魚はサワラだった。

踏み絵は冬の季語で、かつて長崎では旧暦

の正月4日から8日に踏み絵の行事が行われ、
最終日に丸山の遊女が着飾って踏み絵をする
ので見物人が大勢集まった。原爆の爆心地に
近い浦上天主堂は庭で踏み絵の行事が行われ
た庄屋の土地に建てられている。

ガヤは業界用語。
投句が締め切られると、短冊を参加者の人
数で分け、1枚の清記用紙にそれぞれの参加
者が清記する。この時点でどの句が誰の作か
わからない。この紙を順番にまわして句を7
句、うち特選1句を選び、選り終わると披講が
始まる。披講のとき、特選に選んだ句について
短いコメントをするのが放送人句会の慣例で
ある。

この日鶴橋康夫さんが傘寿になったとのこ
とで、みんなでハッピーバースデーを歌い、乾
杯してお祝いした。

披講の最初は中村フミさん。「立春の麻雀聴
牌即立直」を取り、「春になりたいそいそした
気分がある。麻雀用語の漢字がいい」とコメン
ト。

披講の二人目は近藤久二さん。「まどろんで
落ちて逝きたし立つ春に」を取った。この句は
深尾一化さんも特選に取っている。「康夫さん
の句だと思つた。西行の『桜のもとに春死な
ん』の気分かな」とコメント。放送人句会には
「傾向俳句」という言葉があり、袋川とんこう
氏などがパレ句に近い色っぽい句を詠んだが、
康夫氏もそれに近く、ときに激情、ときに悲し
みにあふれる句を詠む。

康夫さんと視郎は「江戸前の眼もと涼しき
鱧かな」を取った。視郎は毎回兼題にそつた絵
を描いて絵葉書を持参するが、今回はサヨリ。
「この絵を褒められている気がして特選に選
んだ」とコメント。

光野さんは「捌かれてなほ可愛げに鱧かな」
を取った。サヨリは寿司、天ぷら、お吸い物な

どに使われるが、麦屋のママは捌いたことがないそう。

備後さんは「春寒やガヤ百人のロケ終わる」を取った。このガヤは映像としてのガヤ、にぎやかし、その他大勢で、「仕出し」に近い。最近のガヤ芸人はにぎやかしの意味だが、本来のガヤはラジオやアテレコのがやがやと騒ぐ声だと、業界人らしい議論があつた。

終わってみれば自作の句の評価にも満足、酒にも料理にも満足。楽しい時間でしたと9時ころ散会しました。

どうか皆様もご参加ください。

新入会員紹介

(入会日順・敬称略)

多田健(ただけん) 65年7月生。

91年北海道テレビ放送入社。ドラマ「ひかりのまち」で民放連優秀賞、国際エミー賞ファイナリスト、ギャラクシー奨励賞。ドラマ「六月のさくら」で文化庁芸術祭優秀賞、ドラマ「大麦畑でつかまえて」で文化庁芸術祭優秀賞、ニューヨークフェスティバル・ファイナリスト。H T V開局50周年ドラマ「チャンネルはそのまま！」で民放連グランプリ。現在H T V営業局戦略プロデューサー。

石田研一(いしだけん) 54年3月生。

77年NHK入局。03年報道局取材センター政治部長。05年報道局制作センターテレビニュース部長。07年福岡放送局長。10年経営企画局長。11年NHK理事(経営企画・財務経理担当、放送総局長)。13年NHK専務理事(放送総局長、総務・検査室・内部監査理事)。15年NHK Kグループバルメディアアサービスマン社長。19年同社・特別経営主幹。

会員名簿

2020.2.21 現在

【あ】 藍澤幸久 相田洋 相本芳彦 青木裕子 青山悌三 秋田和典 秋山豊寛 天野證範 雨宮望 新井和子 【い】 池田正之 石井彰 石井ふく子 石田研一 石橋映里 石橋冠 石原信和 磯智明 板谷駿一 市岡康子 市川哲夫 市村元 伊藤博文 伊藤雅浩 井上佳子 井上良介 今井義典 岩澤敏 岩瀬弥永子 【う】 上村忠 浮田周男 碓井広義 臼杵敬子 【え】 江川雄一 江口展之 遠藤利男 遠藤雅充 【お】 大池雅光 大川光行 大沢悠里 太田昌宏 大原れいこ 大類なぎさ 緒方陽一 岡野真紀子 岡室美奈子 岡本勉 小川治 小川和之 小河原正巳 沖野瞭 荻野慶人 尾田晶子 織田晃之祐 【か】 加賀美幸子 柏木登 片岡敬司 加藤滋紀 加藤拓 加藤義人 金平茂紀 加納孝夫 川平朝清 鎌内啓子 亀谷弘美 鴨下信一 川喜田尚 川口健一 川淵恵子 河邑厚徳 【き】 北川泰三 北川信 北川祐美香 北出晃 北村美憲 北村充史 木下浩一 木原毅 木村成忠 【く】 工藤卓男 工藤英博 隈部紀生 倉内均 訓覇圭 黒崎博 黒沢淳 【こ】 小池勝次郎 河野尚行 小玉滋彦 後藤和晃 小林和男 小山帥人 近藤一男 近藤邦勝 今野勉 【さ】 斎藤秀夫 斎明寺以玖子 寒河江正 坂元良江 桜井均 桜井元 佐々木彰 佐々木光政 笹山正勝 佐藤敦 佐藤幹夫 佐藤理恵子 佐野有利 澤田隆治 【し】 重延浩 重村一 重盛政史 静永純一 志津木敬 四宮康雅 柴田陽一郎 嶋田親一 清水誠 志村一隆 下崎寛 下重暁子 下村幸子 白井博 新山賢治 【す】 菅野高至 菅野嘉則 杉田成道 鈴木俊樹 鈴木典之 鈴木弘貴 鈴木芳夫 鈴木嘉一 須磨章 【せ】 清野豊 関佳史 せんぼんよしこ 【そ】 曾根英二 【た】 高島秀之 高田宏 竹中一夫 武本宏一 田澤正稔 多田健 田中昭男 田中秋夫 田中直人 田中典子 田中則広 田原茂行 【ち】 千葉邦彦 【つ】 塚原あゆ子 塚本茂 塚本幹夫 辻本昌平 土屋敏男 つボイリヲ 露木茂 鶴橋康夫 【と】 東城祐司 戸田桂太 外崎宏司 富沢一誠 豊原隆太郎 鳥谷規 【な】 長井展光 中尾幸男 中込卓也 中崎清栄 中島僚 中島由貴 永田浩三 永田俊和 永野敏一 中町綾子 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村芙美子 中山和記 並木章 【に】 新村もとを 西憲彦 西村与志木 仁田豊文 仁藤雅夫 二宮文彦 【ぬ】 沼田通嗣 【の】 延江浩 信井文夫 【は】 萩原豊 林健嗣 林宣昭 林安二 原田令嗣 【ひ】 日笠昭彦 玄武岩 【ふ】 深尾隆一 藤井チズ子 藤井正博 藤田知久 藤久ミネ 藤村忠寿 古川重樹 【へ】 逸見京子 【ほ】 堀川とんこう 【ま】 前川英樹 牧之瀬恵子 増山麗央 松尾羊一 黛りんたろう 【み】 三上義智 水上毅 水野憲一 光原朋秀 三原治 三村景一 三村千鶴 宮崎洋 宮川鑑一 三宅恭次 【む】 村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】 本木敦子 元田成 諸橋毅一 【や】 八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山鹿達也 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 山根基世 【よ】 吉澤保 吉田賢策 吉村豪介 吉村直樹 【わ】 若松央樹 和崎信哉 渡辺浩平 渡辺紘史

【賛助会員】 日本民間放送連盟 TBSメディア総合研究所 融合研究所 日本ケーブルテレビ連盟

訃報

大蔵雄之助 2020年1月8日没。享年88。

1957年TBS入社。BBC出向、モスクワ支局長、報道局長を経て1987年退社。退社後も「森本毅郎スタンバイ」にコメンテーターとして出演。東洋大学社会学部教授、異文化研究所代表、杉並区教育委員会教育委員長、日本国際フォーラム政策委員、著書「ソヴィエト見聞録」「こちらロンドンBBC」、BBC日本語部の歩み」「一票の反対・ジャネット・ランキンの生涯」など多数。翻訳も多数。

編集後記

▼26ページと分厚い会報になりました。新春特集、下馬評座談会、名作の舞台裏、放送人の世界、みな充実したものと思います。新春特集への多数のご寄稿ありがとうございました。▼私、伊藤は30年前に白内障を手術したのですが、眼内レンズがずれて目の中を動くようになり、1月17日に古いレンズを取り出して新しいレンズを入れる手術をしました。失敗しないスーパードクターの手術でうまくいったのですが、炎症が激しく回復に手間取りました。10日ほどで視力は回復しましたが、診察の結果またレンズがずれていて再手術。再手術は簡単でこれで目の治療は一段落です。▼再手術の日が会報の発行予定日だったので、発行日を1週間遅らせることになりました。すみません。▼松尾さんは新春特集にあるようにまあまあ元気ですが、外出はできず、暖かくなったら出て行くつもり、100歳まで生きるつもりだ、とのこと。▼鈴木典之さんは脊柱管狭窄らしく、家の中でのたうち回るほどの腰の痛みで、3つの病院に通っています。その中で鍼灸の治療が一番効いているようだとのことです。(視)